

地球温暖化対策推進状況評価ツール
(第一区分事業所)の手引き
(第四計画期間)

2024年4月

東京都 環境局

目 次

第1部 ツール全体構成及び各シートの記入要領	1
第1章 地球温暖化対策推進状況評価ツール(第一区分事業所)	1
1 全体構成.....	1
2 各シートの記入要領及び記入例.....	3
メインシート.....	3
取組状況入力シート.....	4
建築物環境計画書入力シート	13
調書シート.....	15
評価書シート.....	24
評価結果シート.....	25
基本情報入力シート.....	26
重み係数シート.....	27
評価結果貼付用シート.....	27
第2章 地球温暖化対策推進状況評価ツール(第一区分事業所)	
【複数エネルギー管理責任者用】	28
1 全体構成.....	28
2 各シートの記入要領.及び記入例.....	29
複数管理者用メインシート.....	29
複数管理者用評価結果シート.....	30
複数管理者用評価書シート.....	31
3 地球温暖化対策推進状況評価書(第一区分事業所)【複数管理者用】作成上の注意点.....	32

第1部 ツール全体構成及び各シートの記入要領

第1章 地球温暖化対策推進状況評価ツール(第一区分事業所)

1 全体構成

地球温暖化推進状況評価ツール(第一区分事業所)は、認定申請事業所で評価書への入力が必要なシート(評価書入力用シート)、調書の作成に必要なシート(調書作成用シート)、評価結果が表示されるシート(評価結果確認用シート)の21シートから構成されている。評価ツールは、Microsoft Excelで作成されている。

入力用シート

- ・トップレベル事業所等の認定水準を満足しているか評価するために、認定申請事業所の概要、CO₂削減対策の取組状況等について入力を行う。
- ・オレンジ色の欄については、直接、数値・コメントを入力する。数値を入力する場合は、半角英数字で入力する。
- ・黄色の欄については、予め用意されている選択肢の中から該当するものを選択する。
- ・白色の欄は、自動計算され入力される欄で、直接入力できない。
- ・入力値や選択肢をコピーして、他のセルに貼り付ける場合は、必ず「値の貼り付け」で行う。

評価書入力用シート

メインシート
第1号様式その2

取組状況入力シート
第1号様式その8からその16

建築物環境計画書入力シート

建築物環境計画書入力シート
第2号様式その17

調書作成用シート

調書作成用シート
第2号様式その1からその13

評価結果確認用シート

- ・入力用シートの内容に基づいた評価結果を確認するためのシートである。
- ・認定申請事業所が、トップレベル事業所等の認定水準を満足しているかどうか、評価結果の確認が可能で、取組が優れている対策や、今後重点的に取組むべき対策等を確認することが可能である。

複数管理責任者用
作成時のみ使用

評価書シート
第1号様式その1

評価結果シート
第1号様式その3からその6

基本情報シート
第1号様式その7

評価結果貼付用シート

調書作成用シート

1. 調書作成シートの構成

調書作成用シートは、設備機器に関する入力が必要なシートが11シートと空調設備集計シートの計14シートとなっている。

第2号様式その1からその12は、認定申請事業所全体の設備機器等の容量や台数等の把握、各対象評価項目の取組状況の程度を把握するために、入力が必要なシートである。また、第2号様式その13は、その1からその6までの熱源・熱搬送設備及び空調・換気設備に関する集計用シートである。

各欄は入力方法の違いで以下の通り色分けを行っている。

- オレンジ色の欄：直接、文字又は数値を入力する。数値を入力する場合は、半角英数で入力する。
- 黄色の欄：予め用意されている選択肢の中から、該当するものを選択する。
- 灰色の欄：予め数式等が入力されているので、直接入力できない。

2. 作成方法

調書の左側部分の各欄は、基本情報に関わるもので、文字又は数値を入力又は選択する。調書の右側部分の各評価項目の欄は、評価項目に掲げられている省エネルギー対策（以下、「省エネ対策」という）が示されており、取組状況に応じて入力又は選択する。

- 省エネ対策が導入されている場合であって、運用上も利用されているときは、「○」印を選択する。
- 省エネ対策が導入されているが、運用上利用されていない場合は、「△」印を選択する。
- 省エネ対策が導入されていない場合は、空欄のまます。

調書入力シート
第2号様式その1からその12

空調設備集計シート
第2号様式その13

合計13シート

3. 印刷における注意点

すべてのシートの印刷範囲の初期設定はA4横1枚となっている。設備機器等を数多く保有し、初期設定の印刷範囲で不足する場合は、改ページプレビューにし、ドラッグによって印刷範囲を必要な分だけ広げて印刷する。

なお、すべてのシートは白黒印刷される初期設定になっている。（提出は白黒印刷とする。）

2 各シートの記入要領及び記入例

地球温暖化対策推進状況評価ツール（第一区分事業所）のファイルを開くと、メインシートが表示される。以降のシートの数式に影響を与えるため、必ずメインシートから入力を行うこと。

1 メインシート

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その2

評価・検証の概要		認定申請 2025年度		Ver.IV 2025
評価日	2025年6月1日	認定申請	2025年度	
評価者	会社名等	東京環境不動産株式会社		「2025」のように半角数字を入力する。
所属	総務部環境対策室長			
氏名	東京 次郎			
検証日	2025年8月1日			
検証者	会社名等	株式会社 日本地球温暖化対策コンサルタント		
所属	技術部長			
氏名	日本 花子			

事業所の概要

指定番号	220000	評価No.	
地球温暖化対策事業者の氏名			
東京環境不動産株式会社 代表取締役社長 東京 太郎			
事業所の名称			
主たる用途	テナントビル	事業所の削減義務率	41 %
敷地面積	14,000 m ²	延床面積又は事業所の床面積	100,000 m ²
階数 地上	34 階	最も古い建物の竣工年月(西暦)	2011年4月
基準排出量	6,500 t-CO ₂ /年	前年度CO ₂ 排出量実績	2,633 t-CO ₂ /年
基準一次エネルギー消費量	230,000 GJ/年	最も新しい建物の竣工年月(西暦)	2014年4月
		前年度一次エネルギー消費量実績	130,000 GJ/年
			26.3 kg-CO ₂ /m ² ・年
			1,300 MJ/m ² ・年

用途別床面積・用途別エネルギー消費比率

※ 床面積は各用途の共用部分を含んだ面積とし、複合用途の場合は全体共用面積を各用途の面積比で按分したものを各用途の面積に加えた数値とする。

用途名	含まれる用途	床面積 [m ²]	用途別エネルギー消費比率
事務所	オフィスビル、官公庁厅舎、警察署、消防署、刑務所、拘置所、斎場、研究施設(事務所的なものに限る)、宗教施設 等	80,000	77.5%
商業施設(物販)	ショッピングセンター、百貨店、スーパー、遊技場、温浴施設、空港、バスターミナル 等	1,000	1.8%
商業施設(飲食)	飲食店、食堂、喫茶店 等	3,000	5.4%
宿泊施設	ホテル、旅館、公共宿泊施設、結婚式場・宴会場、福祉施設 等		
教育施設	小学校、中学校、高等学校、大学、高等専門学校、専修学校、各種学校 等		
医療施設	病院、大学病院 等	1,000	1.7%
情報通信施設	電算センター、データセンター、管制施設 等	1,800	4.4%
文化・娯楽施設	美術館、博物館、図書館、集会場、展示場、劇場、映画館、体育館、競技場、運動施設、遊園地、競馬場、競艇場 等	4,000	4.5%
物流施設	常温倉庫、冷冻冷蔵倉庫、トラックターミナル、物流センター、卸売市場 等		
研究施設	実験・研究施設、クリーンルーム、恒温恒湿室 等		
放送局	放送局、電波塔 等		
水族館	動物園、水族館 等		
駐車場	地下駐車場、車庫 等	10,000	4.8%
熱供給施設	熱供給施設 等		
合 計	標準一次エネルギー消費原単位 2,065 MJ/m ² ・年 37.0%削減	100,000	100.0%

エネルギー消費先比率

※ エネルギー消費先比率の一次エネルギー実測値が90%以上の場合は、採用値の欄に数値を直接入力してもよい。

エネルギー消費先区分 項目	細目	主なエネルギー消費機器	一次エネルギー実測値	標準比率	採用値
			[GJ/年]	比率	
熱 源	熱源本体	冷凍機、冷温水機、ボイラー、パッケージ形空調機等	35,690	27.5%	24.9%
	熱源補機	冷却塔、冷却水ポンプ、冷温水1次ポンプ等	6,230	4.8%	4.4%
熱搬送	水搬送	冷温水2次ポンプ	4,180	3.2%	2.9%
	空気搬送	空調機、ファンコイルユニット等	8,240	6.3%	11.0%
給 湯	給 湯	ボイラー、循環ポンプ、電気温水器等	310	0.2%	1.5%
	照 明	照明器具	22,430	17.3%	19.8%
動 力	コンセント	事務機器等	19,450	15.0%	17.8%
	換 気	I.3.3を評価するときは、必ず入力する。未入力の場合は、評価点が0点となる。	5,670	4.4%	9.4%
其 他	給 排 水	排水ポンプ等	760	0.6%	0.7%
	昇降機	エレベータ、エスカレーター	2,870	2.2%	2.5%
計 全 般	其 他	トランク損失、店舗動力等	560	0.4%	5.1%
	其 他	事業所全体のエネルギー消費量の合計	106,390	81.8%	100.0%
熱負荷低減	外 皮	建物外皮からの熱負荷を処理するための空調エネルギー消費量の想定比率		4.3%	4.3%
	外 気	外気導入による熱負荷を処理するための空調エネルギー消費量の想定比率		12.2%	12.2%
	熱負荷	事業所全体の熱負荷を処理するための空調エネルギー消費量(熱源+熱搬送)の想定比率		43.2%	43.2%

報告の際には、プルダウンから「報告」を選択する。

報告 2025年度 認定年度 2024年度

「報告」を選択すると認定年度の入力欄が表示される。

年月の入力欄は、「2014/4」のように、「年(西暦)/月」と入力する。

延床面積又は事業所の床面積の欄と数値が異なる場合、セルが赤表示(エラ一)となる。

一次エネルギー実測値の比率が90%以上のときのみ、直接数値を入力することができる。

2 取組状況入力シート(第1号様式その8からその16)

- 認定申請事業所における地球温暖化対策の取組状況の程度を、取組状況の欄又は評価内容の表中に
入力する。評価項目毎に、取組状況の程度に応じた評価点が、評価点の欄に表示される。
- 評価項目ごとの枠外にある記号の内、◎印は必須項目、○印は一般項目、+印は加点項目を示す。

第1号様式その8

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その8

黄色: プルダウンから
取組状況を選択する。

※ 枠外の◎印は必須項目、○印は一般項目、+印は加点項目を
加点項目は採用又は実施している場合のみ記入する。

評価点

地球温暖化対策推進に係る評価項目と取組状況(第一区分事業所)			
I. 一般管理 評価分類 1. CO2削減推進体制の整備			
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度 評価点
◎ 1.1	CO2削減推進会議等の設置及び開催	CO2削減推進会議等が設置され、どの程度の頻度で実施されているか。 統括管理者が出席するCO2削減推進会議 特定テナント連絡会議(特定テナントがある場合に限る。) テナント説明会(テナントがある場合に限る。)	月1回以上 1 年2回以上 0.5 年2回以上 0.5
◎ 1.2	PDCA管理サイクルの実施体制の整備	PDCA管理サイクル(計画・実施・確認・処置)の実施体制がどの程度整備されているか。	全て整備 1
+ 1.3	環境認証の取得	環境ラベリング認証が取得されているか。	取得無し 0
2. 図面、管理標準等の整備			
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度 評価点
◎ 2.1	図面・改修履歴等の整備	竣工図、機器完成図及び改修履歴がわかる書類が、どの程度整備されているか。	概ね80%以上は整備 1
◎ 2.2	設備台帳等の整備	エネルギー使用機器の管理のために、電子データ化された設備台帳等が、どの程度整備されているか。	概ね80%以上は整備 1
◎ 2.3	管理標準等の整備	管理標準及び運転操作マニュアルが整備されているか。	整備 1
3. 主要設備等に関する計測・計量及び記録			
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度 評価点
◎ 3.1	ビルエネルギー管理システム(BEMS)等の導入	ビルエネルギー・マネジメントシステム(BEMS)等が導入され、タイムプログラム等基本的制御・監視・管 理用的制御及びエネルギー消費分析・管理)を有しているか。	基本BEMS+拡張機能 1
◎ 3.2	電力負荷状況・発電状況等の把握に必要な計測・計量設備の導入	電力負荷状況、発電状況並びに各変圧器の需要率、負荷率及び不等率の把握に必要な計測・ 計量設備が、一次側の電圧が400V以上の変圧器全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	80%以上に採用 1
◎ 3.3	エネルギー消費先別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入	熱源、照明等エネルギー消費先別の電力量・燃料消費量・熱量の把握に必要な計測・計量設備 による一次エネルギー実測値が、事業所全体のエネルギー消費量に対して、どの程度の割合にな っているか。	70%以上 1
◎ 3.4	系統別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入	建物用途・棟・方位・高さ等により使用エリアを系統に分割し、その系統別の電力量・熱量を含む 使用量の把握に必要な計測・計量設備が、電力量は動力盤及び分電盤総面数、熱量は全ポン プ系統数に対して、どの程度の割合で導入されているか。 電力量 80%以上に採用 1 熱量(冷温水・蒸気) 80%以上に採用 1	1
◎ 3.5	エネルギー供給設備の分析に必要な計測・計量設備の導入	熱源システム効率等、エネルギー供給設備の分析に必要な電力量・燃料消費量・熱量・流量・温 度・補給水量等の把握に必要な計測・計量設備が、どの程度細かく導入されているか。	機器別 1
◎ 3.6	代表階又は代表エリアの使用量把握に必要な計測・計量設備の導入	代表階又は代表エリアの電力量・熱量・温度の把握に必要な計測・計量設備が、基準階数又は 対象エリア面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。	10%以上に採用 1
+ 3.7	空調の使用量に応じた課金体系の導入	主たる用途の空調料金の課金方法に、熱量及び電力量に応じた課金体系(電力量のみの場合を 除く。)が導入されているか。	実施無し 0
4. エネルギー消費量・CO2排出量の管理			
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度 評価点
◎ 4.1	エネルギー消費特性の把握、エネルギー消費原単位の算出及び管理	BEMS等のデータを活用し、電力及び熱のピーク負荷の数値化等によるエネルギー消費の特 性、建物全体のエネルギー消費原単位算出及び類似の建物との比較により、省エネルギー状況 の管理が実施されているか。	実施 1
◎ 4.2	CO2排出量の管理	建物全体のCO2排出量及び原単位の管理がどの程度の頻度で実施されているか。	月1回以上 1
◎ 4.3	CO2削減目標の設定、CO2削減対策計画の立案及び実績の集約・評価の実施	2019年度までのCO2排出量削減に向けた目標を設定し、CO2削減対策項目ごとの具体的な計画 の立案及び実績の集約・評価がどの程度実施されているか。	全て実施 1
◎ 4.4	CO2削減対策の啓発活動の実施	空調、照明等の使用時間短縮、事務用機器・パソコン等の省電力化、冷凍冷蔵庫・ブラインド等 の効率運用などCO2削減対策に関する啓発活動が実施されているか。	実施 1
◎ 4.5	エネルギー供給設備の運転解析の実施	エネルギー供給設備(熱源・熱搬送設備及びヒューズネレーション設備)の運転に関する、BEMS 等のデータの運転解析により、需要パターンに応じた機器の選択と稼働率の選定等、運用実態 に即した運転計画と運転効率の検証が、どの程度の頻度で実施されているか。	年2回以上 1
◎ 4.6	改善策の立案・実施及び効果検証の実施	BEMS等のデータの活用により問題点を抽出し、優先的に改善すべき課題の決定、具体的な対 策・計画及びチューニングなどの改善策の立案と実施、その効果の検証がどの程度実施されて いるか。	全て実施 1
◎ 4.7	コミッショニング(性能検証)の実施	新築・増築又は改修時の竣工後、標準使用状態になった段階から1年以上に渡って、運用段階 のコミッショニング(性能検証)が実施されているか。	実施 1
◎ 4.8	利用者等への環境・エネルギー情報提供システムの導入	インターネット等を介して、利用者がいつでも環境・エネルギー情報を見ることができる状況を提 供する見える化のシステムが導入され、どの程度の頻度でデータが更新されているか。	月1回程度 0.5
+ 4.9	ZEB(ゼロ・エネルギー・ビル)化へのロードマップの策定と実行	事業所内での取組の他、オフサイトの再生可能エネルギー資源も含めたZEB化へのロードマップ が策定され、実行されているか。	実施無し 0
5. 保守・点検の管理			
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度 評価点
◎ 5.1	保守・点検計画の策定及び実施	燃焼設備及び動力設備の保守・点検計画の策定及び計画に基づいた保守・点検の実施がどの 程度実施されているか。	計画の策定及び実施 1

第1号様式その9

II. 建物及び設備性能に関する事項		建築物環境計画書 に基づいた数値を入力する。														
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点												
O 1.1	自然採光を利用したシステムの導入	自然採光を利用したシステムが、主たる室用途の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。	5%未満に採用	0.2												
O 1.2	自然通風を利用したシステムの導入	自然通風を利用したシステムが、主たる室用途の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。	50%以上に採用	1												
+ 1.4	未利用エネルギー・システムの導入	未利用エネルギーを利用するシステムがどの程度導入されているか。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>システム名称</th> <th>エネルギー利用形態</th> <th>発電容量又は熱利用容量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ごみ焼却排熱発電システム</td> <td>電力系統連系有り</td> <td>200 kW</td> </tr> <tr> <td>変電所排熱利用システム</td> <td>電力以外</td> <td>100 MJ/h</td> </tr> <tr> <td>地熱発電システム</td> <td>電力系統連系無し</td> <td>100 kW</td> </tr> </tbody> </table>	システム名称	エネルギー利用形態	発電容量又は熱利用容量	ごみ焼却排熱発電システム	電力系統連系有り	200 kW	変電所排熱利用システム	電力以外	100 MJ/h	地熱発電システム	電力系統連系無し	100 kW	電力換算で100kW以上採用 年間依存率 1.642%	1
システム名称	エネルギー利用形態	発電容量又は熱利用容量														
ごみ焼却排熱発電システム	電力系統連系有り	200 kW														
変電所排熱利用システム	電力以外	100 MJ/h														
地熱発電システム	電力系統連系無し	100 kW														
+ 1.5	年間を通して安定した地中温度を利用したシステムの導入	事業所内に複数の建物があり、計算結果において年間熱負荷係数PAL*の計算結果と年間熱負荷係数PALの計算結果が混在している場合は、それぞれの計算結果の延床面積の比率を入力	この指置が採用無し	0												
2. 建物外皮の省エネルギー性能																
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点												
O 2.1	高性能な建物外皮の導入	主たる建物に高性能な建物外皮がどの程度導入されているか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)において モデル建物法を選択している事業所は、BPImの計算結果 標準入力法を選択している事業所は、PAL*の基準値・算定値を入力 </div>		0.505												
	PAL*の延床面積合計と事業所の延床面積の比率	0.80														
	年間熱負荷係数 PAL*		平均削減率 12%	0.405												
	建物ごとの延床面積 [m ²]	BPIm	PAL*の値[MJ/m ² ・年]													
	20,000.0	0.90		削減率												
	10,000.0	0.90		10%												
	5,000.0	400	300	10%												
				25%												
	年間熱負荷係数 PAL		平均削減率 28%	0.904												
	区分	建築物の用途	屋内周辺空間の床面積 [m ²]	PALの値[MJ/m ² ・年]												
	用途1	事務所等	23,280.0	300 217.0 28%												
	用途2	物販店舗等	110.0	380 282.0 26%												
	用途3	飲食店等	310.0	550 411.0 25%												
	用途4	集会所等	480.0	550 403.0 27%												
	用途5															
	用途6															
	用途7															
	用途8															
	用途9															
	用途10															
	年間熱負荷係数 PAL*又はPALが不明な場合 (2002年6月以前竣工の場合に限る。)		削減率	-												
	※標準階を設定し、各項目の評価を行う															
	建築物の主たる用途			-												
	建築物の平面計画及び立面計画	建築物の主方位		-												
		建築物の形状(アスペクト比)		-												
		コアの配置		-												
		建築物の平均階高		-												
	主たる外壁及び屋根の断熱性能	外壁の断熱性能		-												
		屋根の断熱性能		-												
	主たる窓の断熱性能及び日射遮蔽性能	窓面積率(窓面積 ÷ 外壁面積)		-												
		ガラスの種類		-												
		ブラインドの有無		-												
		ひさし・外ブラインドの有無		-												
		ペリメータシステムの種類		-												
O 2.2	風除室、回転扉等による隙間風対策の導入	外部、地下駐車場、地下道等の非空調空間と空調空間の境にある出入口の隙間風対策が、主たる動線の全出入口数に対して、どの程度の割合で導入されているか。		0.95												
	風除室	40%以上80%未満に採用	0.5													
	回転扉	採用無し	0													
	エアカーテン	採用	1													
	エレベーター遮煙トア又はEVホールの空間分節化	採用	1													
O 2.3	屋上緑化の導入	屋上緑化が導入されているか。	採用	1												
+ 2.4	ブラインドの日射制御及びスケジュール制御の導入	主たる居室のブラインドに日射制御又はスケジュール制御がどの程度導入されているか。	スケジュール制御あり	0.8												
+ 2.5	壁面緑化の導入	壁面緑化又は緑化によるひさしが導入されているか。	採用無し	0												

地球温暖化対策推進状況評価ツール（第一区分事業所）の手引き

第1号様式その10

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その10

3. 設備・制御系の省エネルギー性能

※ 採用したシステム及び制御手法は、運用上も活用している場合において評価する。

白色:調書を入力することで自動的に入力される。

対象設備が無い場合は、プルダウンより除外の選択肢を選択することで、評価の対象外とすることができます

第1号様式その11

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その11

b. 空調・換気設備					
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点	
◎	3b.1 高効率空調機の導入	高効率空調機が、空調機ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		0.976	
		ダブルプラグファン プラグファン モータ直結形ファン ECモータ・永久磁石(IPM)モータ プレミアム効率(IE3)モータ 高効率(IE2)モータ 横円管熱交換器	18%に採用 80%に採用 99%に採用 78%に採用 21%に採用 採用無し 採用無し	0.177 0.796 0.989 0.776 0.213 0 0	
◎	3b.2 高効率パッケージ形空調機の導入	高効率パッケージ形空調機が、パッケージ形空調機総冷却能力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	高効率機器 通年エネルギー消費効率 APF 冷暖房平均COP インバータ制御機器 高効率冷媒(R410A) GHP+EHP一体型空調システム 冷媒蒸発温度自動変更機能 配管の長さ(片道) 機のショートーキット無し 機の散水システム	採用無し 0 96%に採用 0 採用無し 0 採用無し 0 30m以上60m未満 100%に採用 採用無し	0 0.961 0 0 0 0 0.8 1 0
◎	3b.3 高効率ファンの導入	高効率ファンが、ファン(空度の割合で導入されているか。)	白色 : 調書を作成することで、自動的に入力される。 高効率ファン タ直結形ファン モータ・永久磁石(IPM)モータ プレミアム効率(IE3)モータ 高効率(IE2)モータ	0.717 13%に採用 0 91%に採用 0	0.128 0 0.914 0
◎	3b.4 ウォーミングアップ時の外気遮断制御の導入	ウォーミングアップ時の外気遮断制御の導入が、空調用総外気導入量(24時間空調部分を除く。)に対して、どの程度の割合で導入されているか。		95%以上に採用	1
○	3b.5 エレベーター機械室の温度制御の導入	エレベーター機械室の温度制御が、全エレベーター機械室数に対して、どの程度の割合で導入されているか。		80%以上に採用	1
○	3b.6 電気室の温度制御の導入	電気室の温度制御が、全電気室数に対して、どの程度の割合で導入されているか。		80%以上に採用	1
○	3b.7 電算室の冷気と暖気が混合しない設備の導入	情報通信施設の電算室で、冷気と暖気が混合しないようなルーム設備又はラック設備が、全ラック台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。		5%未満(100m以上)に採用	0.2
○	3b.8 空調機の変風量システムの導入	室内温度又は還気温度で空調機ファンのインバータを制御する変風量システムが、空調機ファン総電動機出力(外調機、エレベーター機械室及び電気室を除く。)に対して、どの程度の割合で導入されているか。		95%以上に採用	1
○	3b.9 大空間の居住域空調又は局所空調システムの導入	大空間の居住域空調又は局所空調システムが、大空間の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。		50%以上に採用	1
○	3b.10 空調機の気化式加湿器の導入	空調機の気化式加湿器が、空調用総外気導入量(厨房用を除く。)に対して、どの程度の割合で導入されているか。		70%以上95%未満に採用	0.8
○	3b.11 空調温度制御の不感帯の設定	主たる居室に対する空調温度制御の不感帯(ゼロエナジーバンド制御等)が、設定値に対してどの程度に設定されているか。		±2°C以上	0.8
○	3b.12 外気冷房システムの導入	外気冷房システムが、主たる居室の床面積(冬季及び中間期に冷房が無い室を除く。)に対して、どの程度の割合で導入されているか。		70%以上95%未満に採用	0.8
○	3b.13 CO濃度による外気量制御の導入	CO濃度による外気量制御が、空調用総外気導入量(厨房用を除く。)に対して、どの程度の割合で導入されているか。		70%以上95%未満に採用	0.8
○	3b.14 ファンコイルユニットの比例制御の導入	ファンコイルユニットの比例制御が、ファンコイルユニット総冷却能力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		95%以上に採用	1
○	3b.15 空調のセキュリティー連動制御の導入	空調のセキュリティー連動制御が、主たる事務室、廊下、便所及び宿泊施設の客室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。		95%以上に採用	1
○	3b.16 空調の最適起動制御の導入	空調の最適起動制御が、全空調機台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。		95%以上に採用	1
○	3b.17 非使用室の空調発停制御の導入	VAV, CAV等による非使用室の空調発停制御が、空調時間帯が異なる複数の室が同一空調系統になっている部分の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。		対象空調系統無し	-
○	3b.18 駐車場ファンのCO又はCO2濃度制御の導入	駐車場ファンのCO又はCO2濃度による発停制御、台数制御又はインバータ制御が、自走式駐車場ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		95%以上に採用	1
○	3b.19 热源機械室ファンの燃焼機器等連動停止制御の導入	热源機械室等の燃焼空気が必要な室の全てに、ファンの燃焼機器等連動停止制御が導入されているか。		採用	1
+	3b.20 全熱交換器の導入	全熱交換器が、空調用総外気導入量(厨房用を除く。)に対して、どの程度の割合で導入されているか。		70%以上95%未満に採用	0.8
+	3b.21 大温度差送風空調システムの導入	低温送風による大温度差送風空調システムが、空調機ファン総電動機出力(外調機、エレベーター機械室及び電気室を除く。)に対して、どの程度の割合で導入されているか。		70%以上95%未満に採用	0.8
+	3b.22 床吹出空調システムの導入	床吹出空調システムが、主たる事務室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。		5%未満に採用又は採用無し	0
+	3b.23 放射冷暖房空調システムの導入	放射冷暖房空調システムが、主たる居室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。		5%未満に採用又は採用無し	0
+	3b.24 冷却除湿再熱方式以外の除湿システムの導入	一般的に除湿システムが導入されている美術館及び博物館の展示室、100m以上の宴会場、劇場の客席等の居室に、冷却除湿再熱方式以外の除湿システムが導入されているか。		採用無し	0
+	3b.25 潜熱・顯熱分離方式省エネ空調システムの導入	潜熱・顯熱分離方式省エネ空調システムが、主たる居室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。		5%未満に採用又は採用無し	0
+	3b.26 デシカント空調システムの導入	デシカント空調システムが、空調用総外気導入量(厨房用を除く。)に対して、どの程度の割合で導入されているか。		5%未満に採用又は採用無し	0
+	3b.27 ハイブリッド空調システムの導入	ハイブリッド空調システム(自然換気と空調機器による併用)が、主たる居室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。		5%未満に採用又は採用無し	0
+	3b.28 置換換気システムの導入	置換換気システムが導入されているか。		採用無し	0
+	3b.29 電算室の局所冷房設備の導入	情報通信施設の電算室で、高発熱領域に対する局所冷房設備が、全ラック台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。		5%未満に採用又は採用無し	0
+	3b.30 高効率厨房換気システムの導入	高効率厨房換気システム(置換換気、給排気形フード又は厨房排気の変風量制御)が、全厨房箇所数に対して、どの程度の割合で導入されているか。		20%未満に採用又は採用無し	0
+	3b.31 空調機の間欠運転制御の導入	空調機の間欠運転制御が、空調機ファン総電動機出力(外調機、エレベーター機械室及び電気室を除く。)に対して、どの程度の割合で導入されているか。		5%以上30%未満に採用	0.2
+	3b.32 厨房外調機・ファンの風量モード切換制御の導入	厨房外調機・ファンの風量モード切換制御が、厨房外気導入量に対して、どの程度の割合で導入されているか。		70%以上に採用	1
+	3b.33 厨房外調機の換気モード切換制御の導入	厨房外調機の換気モード切換制御が、厨房外気導入量に対して、どの程度の割合で導入されているか。		70%以上に採用	1
+	3b.34 人感センサーによる換気制御の導入	人感センサーによる換気制御が、主たる便所及び湯沸室に対して、どの程度導入されているか。		採用無し	0
+	3b.35 ファンの手動調整用インバータの導入	ファンの手動調整用インバータが、ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		5%以上30%未満に採用	0.2
+	3b.36 気流感創出ファン・サーチュレーションファンの導入	主たる事務室に気流感創出ファン等、又は大空間にサーチュレーションファンが導入されているか。		採用無し	0
+	3b.37 厨房排気の熱回収システムの導入	厨房排気から熱回収を行い、厨房用外調機の予熱に利用するシステムが導入されているか。		採用無し	0

第1号様式その12

標準入力か簡易入力
のどちらかを選択する

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その12

c. 照明・電気設備		評価内容					取組状況の程度	評価点
No.	評価項目	用途	主たる室用途	床面積 [m ²]	主たる室用途の床面積比率	主たるランプ種類	消費電力 [W/m ²]	
◎ 3c.1	高効率照明器具の導入	高効率照明器具が、主たる室の全ての照明器具に対して、どの程度導入されているか。					簡易入力	0.531
	選択した照明器具の調書(標準入力又は簡易入力)を作成することで、自動的に集計結果が表示される。							
◎ 3c.2	高輝度型誘導灯・蓄光型誘導灯の導入	高輝度型誘導灯又は蓄光型誘導灯が、誘導灯総器具数に対して、どの程度の割合で導入されているか。					80%以上に採用	1
◎ 3c.3	照明の初期照度補正制御の導入	照明の初期照度補正制御が、主たる事務室・教室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。					95%以上に採用	1
◎ 3c.4	照明のゾーニング制御の導入	照明の点滅区分の細分化と、主たる廊下、エントランスホール、駐車場等の間引きによるゾーニング制御がどの程度導入されているか。					廊下及び駐車場の間引き	1
◎ 3c.5	高効率変圧器の導入	高効率変圧器が、600Vを超える7,000V以下の総変圧器容量に対して、どの程度の割合で導入されているか。						0.9
○ 3c.7	高効率UPSの導入	情報通信施設のUPSで、変換効率90%以上の割合で導入されているか。					採用無し	0
○ 3c.8	照明の昼光利用照明制御の導入	照明の昼光利用照明制御が、主たる事務室に導入されているか。					100%に採用	1
○ 3c.9	照明の人感センサーによる在室検知制御の導入	照明の人感センサーによる在室・在席検知面積に対して、どの程度導入されているか。					採用無し	0
○ 3c.10	照明のタイムスケジュール制御の導入	照明のタイムスケジュール制御が、主たる居室、廊下等の共用部に対して、どの程度導入されているか。					40%未満に採用又は採用無し	0
○ 3c.11	照明のセキュリティー連動制御の導入	照明のセキュリティー連動制御が、主たる事務室、廊下、便所及び宿泊施設の客室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。					80%以上に採用	1
○ 3c.12	デマンド制御システムの導入	デマンド制御システムが導入されているか。					80%以上に採用	1
+ 3c.13	タスク＆アンビエント照明システムの導入	タスク＆アンビエント照明システムが、主たる事務室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。					採用無し	0
+ 3c.14	高効率給電設備の導入	200V仕様のある動力設備又は主たる情報通信機器に対して、400V配電方式又は直流配電方式が導入されているか。					採用	1
+ 3c.15	照明の明るさ感知による自動点滅制御の導入	照明の明るさ感知による自動点滅制御が、窓のある主たるエントランスホール、廊下、便所等に導入されているか。					採用	1
+ 3c.16	照明の局所制御の導入	照明器具ごとのスイッチ等による照明の局所制御が、主たる事務室、廊下、便所又は湯沸室に対して、どの程度導入されているか。					採用無し	0
+ 3c.17	誘導灯の消灯制御の導入	誘導灯の消灯制御が導入されているか。					採用無し	0
+ 3c.18	事務室のセンサーによる照明制御単位の細分化	主たる事務室のセンサーによる照明制御単位の細分化が、主たる事務室に導入されているか。					採用無し	0

第1号様式その13

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その13

d. 給排水・給湯設備		評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
◎	3d.1	高効率給水ポンプの導入	高効率給水ポンプが、加圧給水ポンプユニット総電動機出力又は給水ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		1
			推定末端圧一定インバータ制御ポンプユニット 永久磁石(IPM)モータ プレミアム効率(IE3)モータ 高効率(IE2)モータ	100%に採用 採用無し 98%に採用 採用無し	1 0 0.981 0
○	3d.2	大便器の節水器具の導入	大便器の節水器具(10%/回以下)又は対して、どの程度の割合で導入されているか。	黄色：プルダウンから取組状況を選択する。 所の大便器数に対し80%以上に超節水器具を採用しているか。	1 1
○	3d.4	洗面器の自動水栓の導入	洗面器の自動水栓が、主たる便所の洗面器の自動水栓が、主たる便所の洗面器の自動水栓が、主たる便所の洗面器及び湯沸室の雑湯	80%以上に採用	1
○	3d.6	便所洗面・湯沸室への局所給湯システムの導入	主たる便所の洗面器及び湯沸室の雑湯	ているか。 採用	1
+	3d.7	排水再利用システム等の導入	雨水利用システム、空調ドレン利用システムは再生水、工業用水、湧水等の雑用水	利用システム、又は採用	1
+	3d.8	高効率給湯ヒートポンプユニットの導入	定格COP3.0以上の高効率給湯ヒートポンプユニット(アモリティ・ヒートポンプ方式による給湯器に限る。)が、中央給湯方式の給湯加熱能力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	20%未満に採用又は採用無し	0
+	3d.9	自然冷媒ヒートポンプ給湯器の導入	自然冷媒ヒートポンプ給湯器が、貯湯容量300L以上の電気給湯器全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	20%未満に採用又は採用無し	0
+	3d.10	潜熱回収給湯器の導入	潜熱回収給湯器が、ガス給湯器全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	20%未満に採用又は採用無し	0
+	3d.11	水道本管圧力利用システムの導入	給水方式に水道本管圧力利用システムが導入されているか。	採用無し	0
e. 積降機設備		評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
◎	3e.1	エレベーターの可変電圧可変周波数制御方式の導入	エレベーターの可変電圧可変周波数制御方式(VVVVF制御方式)が、エレベーター総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用	1
◎	3e.2	エレベーターの群管理制御の導入	エレベーターの群管理制御が、複数台設置してある箇所のエレベーター総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用	1
○	3e.3	エレベーターごとの照明、ファン等の不使用時停止制御の導入	エレベーターごとの照明、ファン等の不使用時停止制御が、全エレベーター台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用	1
+	3e.4	エレベーターの電力回生制御の導入	エレベーターの電力回生制御が、エレベーター総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用	1
+	3e.5	エスカレーターの自動運転方式又は微速運転方式の導入	エスカレーターの自動運転方式又は微速運転方式が、エスカレーター総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用	1
f. その他		評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
+	3f.3	高効率冷凍・冷蔵設備の導入	高効率冷凍・冷蔵設備が、冷凍・冷蔵設備の圧縮機総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		0.75
			冷凍庫壁面の高断熱化 前室の導入 搬入口近接セイサーによる扉の自動閉鎖化 着霜制御(デフロスト) 圧縮機入口ガス管の断熱化 冷却器用ファンの台数制御 圧縮機インバータ制御	100%に採用 100%に採用 採用無し 100%に採用 100%に採用 採用無し 100%に採用	1 1 0 1 1 0 1
+	3f.4	高効率エアコンプレッサーの導入	高効率エアコンプレッサーが導入されているか。		0
		オレンジ色：該当する場合、直接入力する該当しない場合は、空欄のまます。	インバータ制御 永久磁石(IPM)モータ プレミアム効率(IE3)モータ 高効率(IE2)モータ 2段圧縮方式 インバータ制御冷却ファン 増風量制御方式 圧縮機・モータ直結構造 複数台圧縮機制御	採用無し 採用無し 採用無し 採用無し 採用無し 採用無し 採用無し 採用無し	0 0 0 0 0 0 0 0
+	3f.5	高効率プロワ・その他設備に係る高効率ポンプの導入	高効率プロワ又はその他設備に係る高効率ポンプが導入されているか。		0
			永久磁石(IPM)モータ プレミアム効率(IE3)モータ 高効率(IE2)モータ	採用無し 採用無し 採用無し	0 0 0
+	3f.6	高効率クリーンルームの導入	高効率クリーンルームが導入されているか。 高効率クリーンルームの床面積 [m ²]		0
			装置冷却水の排熱利用 送風機台数制御 送風機インバータ制御 省エネ型FFU ローカルリターン方式	採用無し 採用無し 採用無し 採用無し 採用無し	0 0 0 0 0
+	3f.7	高効率厨房機器の導入	厨房換気量を低減するために、電化厨房又は集中排気型ガス厨房が、床面積100m ² 以上の厨房に導入されているか。	採用無し	0
+	3f.8	プロワ・その他設備に係るポンプのインバータ制御の導入	プロワ又はその他設備に係るポンプにインバータ制御が導入されているか。	採用無し	0
+	3f.9	ドラフトチャンバーの換気量可変制御システムの導入	ドラフトチャンバーのフード開口面積又は人検知センサーによる換気量可変制御システムが、全ドラフトチャンバー台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	20%未満に採用又は採用無し	0

第1号様式その14

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その14

III. 事業所及び設備の運用に関する事項		黄色:プルダウンから取組状況を選択する	評価点	
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
◎	1a.1 燃焼機器の空気比の管理	ボイラー、直焚吸収冷温水機等の全ての燃焼機器の空気比が、どの程度に管理されているか。	目標空気比	1
◎	1a.2 蒸気ボイラーの設定圧力の適正化	全ての蒸気ボイラーの設定圧力が二次側機器の必要圧力に対して適正に調整されているか。	蒸気ボイラー無し	-
◎	1a.3 冷凍機の冷却水温度設定値の調整	全ての冷凍機の冷却水温度設定値が、冷凍機の冷却水下限温度を目標に調整されているか。	実施	1
+	1a.4 熱のエネルギー効率の実績	熱のエネルギー効率の実績はどの程度か。 熱のエネルギー効率	0.80以上0.85未満 0.8	0.5
○	1a.5 部分負荷時の熱源運転の適正化	部分負荷時の熱負荷に応じた熱源機器運転の適正化が、熱源群全系統数に対して、どの程度の割合で実施されているか。	80%以上で実施	1
○	1a.6 部分負荷時の空調用ポンプ運転の適正化	部分負荷時の熱負荷に応じた空調用ポンプ運転の適正化が、空調2次ポンプ群及び冷却水ポンプ群全系統数に対して、どの程度の割合で実施されているか。	80%以上で実施	1
○	1a.7 蒸気ボイラーの給水水質・ブロード量の管理	全ての蒸気ボイラーの給水水質及びブロード量が、ブロード率10%以下に管理されているか。	蒸気ボイラー無し	-
○	1a.8 熱源機器の冷温水出口温度設定値の調整	熱源機器の効率向上のために、冷温水出口温度設定値が調整されているか。	実施	1
○	1a.9 蓄熱槽の管理	蓄熱槽の温度分布、蓄放熱時の温度プロファイル等が適正に管理されているか。	実施	1
○	1a.10 コージェネレーションの運転の適正化	コージェネレーションの排熱が有効に利用できるように、発電及び排熱利用の状況が適正に管理されているか。	コージェネレーション無し	-
○	1a.12 ミキシングロス防止のためのバルブ開度の確認	ミキシングロス防止のために、冷温水切換用のバルブ閉止が確認されているか。	実施	1
○	1a.13 インバータ制御系統のバルブの開度調整	インバータ制御系統の空調用ポンプ回りの全てのバルブが全開になるように調整されているか。	実施	1
○	1a.14 熱源不要期間の熱源機器等停止	熱源機器及び空調用ポンプで、熱源不要期間の電源供給停止、又は夜間の運転停止が実施されているか。	対象機器無し	-
○	1a.15 空調開始時の熱源起動時間の適正化	熱源機器及び空調2次ポンプの起動時間が、空調開始時間に合わせて季節ごとに適正に管理されているか。	対象機器無し	-
○	1a.16 空調停止時の熱源運転時間の短縮	熱源機器が空調停止時間前に停止されているか。	対象機器無し	-
○	1a.17 空調2次ポンプ変流量制御のインバータ周波数下限値の調整	空調2次ポンプ変流量制御のインバータ周波数下限値が、どの程度の周波数に調整されているか。	15Hz超20Hz以下	0.5
○	1a.18 再生可能エネルギー等熱利用システムのバックアップ運転の適正化	再生可能エネルギー等熱利用システムのバックアップ運転の適正化が実施されているか。	実施無し	0
b. 空調・換気設備				
No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
◎	1b.1 室使用開始時の空調起動時間の適正化	室の使用開始時間に合わせた季節ごとの空調起動時間の適正化が、主たる居室の床面積に対して、どの程度の割合で実施されているか。	95%以上で実施	1
◎	1b.2 CO2濃度・外気温湿度による外気取入量の調整	外気負荷低減、外気冷房等のために、室内CO2濃度及び外気温湿度による外気取入量の調整が、主たる居室の床面積に対して、どの程度の割合で実施されているか。	95%以上で実施	1
◎	1b.3 居室の室内温度の適正化	居室の実際の室内温度の適正化(夏季26°C以上)が、主たる居室の床面積に対して、どの程度の割合で実施されているか。	70%以上で実施	1
◎	1b.4 ファンの間欠運転の実施	スケジュール又は自動制御によるファンの間欠運転が、機械室(燃焼系統、臭気系統を除く。)及び倉庫のファンに対して、どの程度実施されているか。	3時間以下	1
○	1b.5 電算室の空調機運転の適正化	情報通信施設の電算室で、発熱量に合わせた空調機運転の適正化が、全電算室数に対して、どの程度の割合で実施されているか。	80%以上で実施	1
○	1b.6 空調運転時間の短縮	空調運転時間の短縮が、主たるエントランスホール、廊下、便所、体育館・武道場等又は主たる室用途の床面積に対して、どの程度実施されているか、又は主たる事務室の平均年間空調運転時間が、どの程度で運用されているか。 主たるエントランスホール 中間期・夜間・休日停止 主たる廊下 中間期・夜間・休日停止 主たる便所 中間期・夜間・休日停止 体育館・武道場等 体育館・武道場等無し 主たる室用途 20%未満で実施又は実施無し 主たる事務室 把握できていない	0.56 0.8 0.8 0.8 - 0 0	0.8
○	1b.7 冬季におけるペリメータ設定温度の適正化	冬季のペリメータ設定温度をインテリアより低くする運用が、主たる事務室の床面積に対して、どの程度の割合で実施されているか。	50%以上で実施	1
○	1b.8 クールビズ・ウォームビズによる空調設定温度の緩和	クールビズ(夏季27°C以上)及びウォームビズ(冬季20°C以下)による空調設定温度の緩和が、主たる事務室、教室及び研究室の床面積に対して、どの程度の割合で実施されているか。	5%以上30%未満で実施	0.5
○	1b.9 居室以外の室内温度の緩和	主たるエントランスホール、廊下等の居室以外の室内温度が、居室に対して、夏季は高め、冬季は低め、又は夏季27°C以上、冬季20°C以下に設定されているか。	エントランスホール及び廊下で実施	1
○	1b.10 冷却除湿再熱の停止	冷却除湿再熱システムが導入されている室で、再熱の停止が実施されているか。	冷却除湿再熱無し	-
○	1b.11 建物全体の給排気バランスの管理	過大な隙間風の侵入が無いように、建物全体の給排気バランスが調整されているか。	実施	1
○	1b.12 エレベーター機械室・電気室の室内設定温度の適正化	エレベーター機械室及び電気室(UPS・蓄電池専用室を除く。)の室内設定温度の適正化が、全エレベーター機械室数及び全電気室数に対して、どの程度の割合で実施されているか。	80%以上で実施	1
○	1b.13 エレベーター機械室・電気室のファンの夏季停止	エレベーター機械室及び電気室のファンの夏季停止が、空調機併用システムの全エレベーター機械室数及び全電気室数に対して、どの程度の割合で実施されているか。	80%以上で実施	1
○	1b.14 エレベーター機械室・電気室の空調機の給気・還気設定温度の適正化	エレベーター機械室及び電気室の空調機又はパッケージ形空調機の給気設定温度又は還気設定温度の適正化が、室内温度とは別に給気温度又は還気温度の設定が可能な全エレベーター機械室数及び全電気室数に対して、どの程度の割合で実施されているか。	80%以上で実施	1
+	1b.15 冬季冷房になる室の設定温度の適正化	ミキシングロスの発生を抑えるために、冬季に暖房から冷房に切り換わる室は、起動時の室内温度が低めに設定されているか。	実施	1
+	1b.16 ファンのブリーダウンの実施	ダンバが絞られている系統のファンのブリーダウンが実施されているか。	実施無し	0
+	1b.17 地下駐車場のスロープ等からの自然給気	地下駐車場のスロープ等からの自然給気により、駐車場給気ファンが停止されているか。	実施	1
+	1b.18 パッケージ形空調機の省エネチューニングの実施	パッケージ形空調機の冷媒蒸発温度設定値の調整が実施されているか。	実施無し	0
+	1b.19 変風量システムの最小風量設定値の調整	変風量システムの変風量装置VAVの最小風量設定値が、設計風量に対して、どの程度の割合に調整されているか。	30%超40%以下	0.2
+	1b.20 変風量システムのインバータ周波数下限値の調整	変風量システムの空調機ファンのインバータ周波数下限値が、どの程度の周波数に調整されているか。	10Hz以下	1
+	1b.21 廚房外調機の換気モード切換制御による換気モード運転の適正化	厨房外調機の換気モード切換制御による換気モードの運転が、どの程度実施されているか。	4か月以上	1

第1号様式その15

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))

黄色: ブルダウンから
取組状況を選択する

c. 照明・電気設備		評価内容	取組状況の程度	評価点
No.	評価項目			
⑤	1c.1 居室以外の照度条件の緩和	間引き点灯又は調光等による照度条件の緩和が、主たる廊下、エントランスホール及び駐車場の床面積に対して、どの程度実施されているか。	昼間時間帯 夜間時間帯	駐車場のみで実施 廊下及び駐車場で実施
○	1c.2 清掃等の日常メンテナンス作業時の照明点灯時間・照度条件の適正化	清掃や日常メンテナンス等の作業時に照明点灯時間延長の抑制又は照度条件の緩和が、主たる室用途の床面積に対して、どの程度の割合で実施されているか。	40%以上80%未満で実施	0.5
○	1c.3 不要期間・不要時間帯の遮断器の遮断	負荷がない時期、夜間等に、遮断器の遮断が実施されているか。	不要遮断器無し	-
○	1c.4 事務室の室内照度の適正化	事務室の室内照度の適正化(概ね500lx以下)が、主たる事務室の床面積に対して、どの程度の割合で実施されているか。	50%以上70%未満で実施	0.8
+	1c.5 事務室の照度条件の緩和	事務室の照明の間引き点灯又は調光等による照度条件の緩和(概ね300lx以下)が、主たる事務室の床面積に対して、どの程度の割合で実施されているか。	5%未満で実施又は実施無し	0
+	1c.6 時間外等の照明点灯エリアの集約化	時間外等の照明点灯エリアを集約する工夫が行われているか。	実施無し	0
+	1c.7 人感センサーのタイマー設定時間の適正化	人感センサーのタイマー設定時間の適正化が、主たる便所に対して、どの程度実施されているか。	10分超又は実施無し	0
d. 給排水・給湯設備		評価内容	取組状況の程度	評価点
No.	評価項目			
○	1d.1 給水圧力の管理	バルブ全開時の末端圧力が過剰にならないように、給水ポンプユニットの設定圧力が調整されているか。	実施	1
○	1d.2 貯湯温度設定の緩和	衛生上可能な範囲で、貯湯温度設定の緩和が実施されているか。	貯湯槽無し	-
○	1d.3 掃水ポンプのバルブの開度調整	掃水ポンプ系統のバルブが極力抵抗しないように調整されているか。	実施	1
○	1d.4 洗浄便座暖房の夏季停止	洗浄便座暖房の夏季停止が実施されているか。	実施	1
○	1d.5 給水・給湯バルブの調整	節水のために給水・給湯の分岐バルブが使用上支障のない範囲で絞られているか。	実施	1
○	1d.6 給湯温度設定の緩和	季節や用途等に応じた給湯温度設定の緩和が実施されているか。	実施	1
○	1d.7 貯湯式電気温水器の夜間・休日の電源停止	貯湯式電気温水器の夜間及び休日の電源停止が実施されているか。	実施	1
○	1d.8 便所洗面給湯の給湯中止又は給湯期間の短縮	便所洗面給湯の給湯中止又は給湯期間の短縮が実施されているか。	夏季の給湯中止	0.8
○	1d.9 給湯不要時間帯の給湯循環ポンプの停止	給湯不要時間帯の給湯循環ポンプの停止が実施されているか。	対象機器無し	-
e. 昇降機設備		評価内容	取組状況の程度	評価点
No.	評価項目			
○	1e.1 夜間・休日のエレベーターの運転台数の削減	夜間・休日のエレベーターの運転台数の削減が実施されているか。	実施	1
○	1e.2 エレベーターかご内の空調設定温度の緩和	夏季のエレベーターかご内の空調設定温度が居室より高く設定されているか。	実施	0.8
f. その他		評価内容	取組状況の程度	評価点
No.	評価項目			
○	1f.1 外部に面する出入口の開閉の管理	冷房時・暖房時の閉鎖など外部に面する出入口の開閉の適正な管理が、主たる動線の全出入口数に対して、どの程度の割合で実施されているか。	80%以上で実施	1
○	1f.2 非稼働エリアのエア供給弁の閉止	非稼働エリアのエア供給弁が閉止されているか。	エアコンプレッサー無し	-
○	1f.3 非使用時間帯のエアコンプレッサーの停止	非使用時間帯のエアコンプレッサーの停止が実施されているか。	エアコンプレッサー無し	-
○	1f.4 エアコンプレッサーの設定圧力の適正化	エアコンプレッサーの設定圧力がエア使用端の必要圧力+0.1MPa以下に調整されているか。	エアコンプレッサー無し	-
○	1f.5 エアコンプレッサー吸入空気温度の管理	充分な換気の確保等、エアコンプレッサーの吸入空気温度が高くならないよう管理されているか。	エアコンプレッサー無し	-
○	1f.6 冷凍・冷蔵設備冷却器の除霜(デフロスト)の実施	冷凍・冷蔵設備冷却器の除霜(デフロスト)(着霜制御がある場合も除霜実施と見なす。)が実施されているか。	冷凍・冷蔵設備無し	-
○	1f.7 情報通信施設のPUEの実績	主たる用途が情報通信施設の場合、PUE(Power Usage Effectiveness)の実績がどの程度か。	2.0超2.2以下	-
2. 保守管理				
a. 熱源・熱搬送設備		評価内容	取組状況の程度	評価点
No.	評価項目			
○	2a.1 熱源機器の点検・清掃	冷凍機のコンデンサ及びエバボレータの清掃、燃焼機器の伝熱面の清掃及びスケール除去、バーナーオズルの点検等の熱源機器の点検・清掃が適切な頻度で実施されているか。	実施	1
○	2a.2 冷却水の適正な水質管理及び冷却塔の充填材の清掃	冷却水の適正な水質管理及び冷却塔の充填材の清掃が適切な頻度で実施されているか。	実施	1
○	2a.3 熱源用制御機器の点検及び制御バルブ等の作動チェック	熱源用制御機器の点検及び制御バルブ等の作動チェックが適切な頻度で実施されているか。	実施	1
○	2a.4 热交換器の清掃	熱交換器の清掃が適切な頻度で実施されているか。	実施	1
○	2a.5 蒸気配管・バルブ・スチームトラップからの漏れ点検	蒸気配管・バルブ等からの漏れ点検及びスチームトラップの点検が適切な頻度で実施されているか。	蒸気配管無し	-
+	2a.6 熱源機器のメーカーによる遠隔監視	予知予防保全のために熱源機器のメーカーによる遠隔監視が実施されているか。	実施無し	0
b. 空調・換気設備		評価内容	取組状況の程度	評価点
No.	評価項目			
○	2b.1 空調機・ファンコイルユニット等のフィルターの清浄	空調機、ファンコイルユニット等のフィルターの清浄が適切な頻度で実施されているか。	実施	1
○	2b.2 センサー類の精度チェック及び制御ダンバ等の作動チェック	センサー類の精度チェック及び制御ダンバ等の作動チェックが適切な頻度で実施されているか。	実施	1
○	2b.3 空調機・ファンコイルユニット等のコイルフィンの清浄	空調機、ファンコイルユニット等のコイルフィンの清浄が適切な頻度で実施されているか。	実施	1
○	2b.4 パッケージ屋外機のフィンコイル洗浄	パッケージ屋外機のフィンコイル洗浄が適切な頻度で実施されているか。	実施	1
○	2b.5 省エネファンベルトへの交換	省エネファンベルトへの交換が、ベルト駆動ファンの全台数に対して、どの程度の割合で実施されているか。	50%以上で実施	1
+	2b.6 パッケージ形空調機のメーカーによる遠隔監視	予知予防保全のために、パッケージ形空調機のメーカー等による遠隔監視が実施されているか。	実施無し	0
c. 照明・電気設備		評価内容	取組状況の程度	評価点
No.	評価項目			
○	2c.1 照明用制御設備の作動チェック	照明用制御設備の作動チェックが適切な頻度で実施されているか。	実施	1
○	2c.2 照明器具の清掃及び定期的なランプ交換	照明器具の清掃及び定期的なランプ交換が汚れの状態や用途に応じて定期的に実施されているか。	実施無し	0
○	2c.3 ランプ交換時の初期照度補正リセットの実施	タイマー式の初期照度補正リセット付きの照明器具のランプ交換時に、リセット操作が実施されているか。	対象設備無し	-
f. その他		評価内容	取組状況の程度	評価点
No.	評価項目			
○	2f.1 冷凍・冷蔵庫の保温管理	冷凍・冷蔵庫の保温状況の点検及び保守が実施されているか。	冷凍・冷蔵庫無し	-
○	2f.2 エア配管・バルブからの漏れ点検及びエアコンプレッサー吸込フィルターの清掃	エア配管及びバルブからの漏れ点検及びエアコンプレッサーの吸込みフィルターの清掃が適切に実施されているか。	エアコンプレッサー無し	-

地球温暖化対策推進状況評価ツール（第一区分事業所）の手引き

第1号様式その16

事業所の敷地内の発電容量、年間発電量を記入すると、評価点が自動計算

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その16

IV. 事業所の再生可能エネルギーの利用に関する事項

1. オンサイトの再生可能エネルギーの利用

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
○	1.1 太陽光発電システムの導入	太陽光発電システムがどの程度導入されているか。	発電容量 100 kW 年間発電量 1,000 MWh/年	1
+	1.2 大規模太陽光発電システムの導入	大規模な太陽光発電システムがどの程度導入されているか。		0.267
+	1.3 再生可能エネルギー・システムの導入	太陽光発電システム以外の再生可能エネルギーを利用するシステムがどの程度導入されているか。	電力換算で30kW以上50kW未満採用 年間依存率 7.518%	
	黄色: プルダウンからシステム名称等を選択する	システム名称 バイオマス発電システム 地中熱・地下水利用システム エネルギー利用形態 電力系統連系有り 電力以外 発電容量又は熟利容量 20 kW 200 MJ/h 200 MWh/年 200 GJ/年		0.5

2. オフサイトの再生可能エネルギーの利用

No.	評価項目	事業 可能エネルギー発電設備の導入	キーナーを利用するシステムについて、発電容量 又は熱利用容量等で評価点を自動計算			評価点
				取組状況の程度		
○	2.1	オフサイトの再生可能エネルギー発電設備の導入	事業 可能エネルギー発電設備の電力が、どの程度供給されているか。	力供給目的とした再生		
			黄色：プルダウンからシステム名称等を選択する	システム名称	追加性の有無	年間電力量
				太陽光発電システム	○	40 MWh/年
				風力発電システム		300 MWh/年
				バイオマス発電システム	○	60 MWh/年
				バイオマス発電システム		100 MWh/年
+	2.2	追加性等のあるオフサイトの再生可能エネルギー発電設備の導入	事業所の敷地外に、自己託送又はオフサイトPPAによる事業所への電力供給目的とした追加性等のある再生可能エネルギー発電設備が、どの程度導入されているか。			0.333

3. 電気需給契約等による再生可能エネルギーの利用

No.	評価項目	黄色:ブルダウンから取組状況を選択する	取組状況の程度	評価点
3.1	再生可能エネルギー電気の購入	再生可能エネルギー電気が、購入電入されているか。	80%以上購入	1
3.2	追加性等のある再生可能エネルギー電気の購入	追加性等のある再生可能エネルギー電気が、購入電力量にに対して、どの程度の割合で購入されているか。	80%以上購入	1

4. 電氣需要最適化

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
○	4.1 駐車場のZEV充電設備の整備	駐車場にZEV充電設備がどの程度導入されているか。	ZEV充電設備実装 ZEV充電設備配管等	駐車場無し 駐車場無し
+	4.2 デマンドレスポンスに対応した設備の導入	デマンドレスポンスに対応した蓄電・蓄熱システム等がどの程度導入されているか。		下げるDR対応のみ
+	4.3 小売電気事業者等とのデマンドレスポンス契約	小売電気事業者等とインセンティブ型のデマンドレスポンス契約を締結し、需給調整が実施されているか。		契約のみ

V. 事業所のゼロエミッション化や環境配慮等の取組に関する事項

1. CO₂排出・エネルギー消費等の削減

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
◎	1.1 ゼロエミッション化へのロードマップの策定	事業所内での取組の他、オフサイトの再生可能エネルギー発電設備、再生可能エネルギー電気の購入等を含めたゼロエミッション化へのロードマップの策定がどの程度実施されているか。	策定・公表	1
○	1.2 ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)化へのロードマップの策定	事業所内での取組の促進により、ZEB化へのロードマップの策定がどの程度実施されているか。	策定・公表	1
◎	1.3 CO2排出量の削減実績	CO2排出量実績が、基準排出量に対して、どの程度の割合で削減されているか。	59.5%削減	0.504
○	1.4 一次エネルギー消費量の削減実績	一次エネルギー消費量実績が、基準一次エネルギー消費量に対して、どの程度の割合で削減されているか。	43.5%削減	0.791
○	1.5 再生可能エネルギー電気の利用割合	再生可能エネルギー電気が、電力消費量に対して、どの程度の割合で利用されているか。	100%利用	1
○	1.6 特定温室効果ガス以外の温室効果ガス排出量の削減実績	前年度の特定温室効果ガス以外の温室効果ガス(CO2(特定温室効果ガス以外のCO2)、CH4、N2O、HFC、PFC、SF6、NF3)の排出量が、その他ガス削減量算定ガイドラインに示す基準排出量に対して、どの程度の割合で削減されているか。	45%以上60%未満削減	0.5

2. 気候変動適応策

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点
○ 2.1	気候変動への適応	浸水被害や、停電、断水等への対策が、どの程度実施されているか。 ○ 浸水被害への備え ○ 雨水流出し抑制 ○ 災害時用の自家発電設備等の設置 ○ 災害時の給排水機能の確保 ○ 災害時の換気機能の確保 ○ 防災備蓄倉庫の確保	地盤面から45cm以上で実施 500m ³ /ha以上1000m ³ /ha未満で実施 実施 確保 実施無し 実施無し	1 0.8 0.5 1 1 0

3. その他の環境配慮の取組

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点	
○	3.1 持続可能な低炭素資材等の導入	建設・更新等において、持続可能な低炭素資材等が、どの程度導入されているか。	躯体材料における低炭素資材の利用 躯体材料におけるリサイクル材の利用 躯体材料以外における低炭素資材の利用 躯体材料以外におけるリサイクル材の利用	全て採用 1種類採用 全て採用 1種類採用	0.8 1 0.5 1 0.5
+	3.2 建設時のCO2排出量の把握と低減	建設に伴い排出されるCO2排出量が算出され、その排出量を低減するための対策を実施しているか。		実施無し	0
+	3.3 テナント工事に伴うCO2排出量を低減させる貸方基準書等の整備	省資源化や廃棄物の削減等、テナント工事に伴うCO2排出量を低減させる貸方基準書等が整備されているか。		整備無し	0
+	3.4 ウェルネスに関する環境認証の取得	ウェルネスに関する環境ラベリング認証が取得されているか。		取得	1

2 建築物環境計画書入力シート（第1号様式その17）

- 認定申請事業所において、建築物環境計画書を用いて評価する場合の取組状況の程度を、取組状況の程度の欄又は評価内容の表中に入力する。評価項目毎に、取組状況の程度に応じた評価点が、評価点の欄に表示される。

第1号様式その17

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その17

地球温暖化対策推進状況評価 建築物環境計画書連携

1. 建物外皮の省エネルギー性能

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点	得点
1 (II.2.1)	高性能な建物外皮の導入	主たる建築物に高性能な建物外皮がどの程度導入されているか。 ※モデル建物法で算出した場合、BPI _m の欄に記入 ※標準入力法で算出した場合、PAL*の値の欄に記入		0.695	1.564
	エネルギー消費性能計算プログラム (非住宅版)において モデル建物法を選択している事業所は、 BPI _m の計算結果 標準入力法を選択している事業所は、 PAL*の基準値・算定値を入力	(事業所内に複数の建物がある場合) ※事業所内に複数の建物がある場合は、各建物の計算結果及び延床面積を記入することで、事業所全体のPAL*低減率(BPI)が自動計算される。	平均低減率 18%		
		建物ごとの延床面積 [m ²] BPI _m 基準値 算定値	PAL* 低減率 20,000.0 250 200 20% 10,000.0 0.90 250 10% 5,000.0 400 300 25%		

2. 設備システムの高効率化

No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度	評価点	得点
1	設備システムの高効率化	主たる建築物の省エネルギー性能がどの程度か。 ※モデル建物法で算出した場合、BEI _m の欄に記入 ※標準入力法で算出した場合、一次エネルギー消費量の欄に記入		0.861	31.292
	エネルギー消費性能計算プログラム (非住宅版)において モデル建物法を選択している事業所は、 BEI _m の計算結果 標準入力法を選択している事業所は、 一次エネルギー消費量の基準値・設計値を入力	(事業所内に複数の建物がある場合) ※事業所内に複数の建物がある場合は、各建物の計算結果及び延床面積を記入することで、事業所全体のERR(BEI)が自動計算される。なお、全ての建物を標準入力法で算出している場合は、設計値の合計／基準値の合計で平均ERRを計算する。	平均ERR 50%		
		建物ごとの延床面積 [m ²] BEI _m 基準値 設計値	ERR 20,000.0 30,000 9,000 70% 20,000.0 0.70 30,000 30% 10,000.0 10,000 5,000 50%		

3. 未評価技術に関する性能

No.	評価項目	黄色・ブルダウンから 取組状況を選択する	取組状況の程度	評価点	得点
1 (II.1.1)	自然採光を利用したシステムの導入	自然採光を利用したシステムが、主たる室用途の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。	度の割合で導入され 採用	1	3.308
2 (II.1.2)	自然通風を利用したシステムの導入	自然通風を利用したシステムが、主たる室用途の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。	採用	1	
3 (II.1.5)	年間を通して安定した地中温度を利用したシステムの導入	クールトレーンチ、ヒートトレーンチその他の年間を通して安定した地中温度の利用のための措置が導入されているか。	採用	1	
4 (II.3a.13)	空調1次ポンプ変流量制御の導入	空調1次ポンプの台数制御又はインバータによる変流量制御が、空調1次ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用	1	
5 (II.3a.14)	冷却水ポンプ変流量制御の導入	冷却水ポンプの台数制御又はインバータによる変流量制御が、冷却水ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	50%以上70%未満に採用	0.5	
6 (II.3a.15)	空調2次ポンプの末端差圧制御の導入	空調2次ポンプの末端差圧制御等が、空調2次ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	50%未満に採用又は採用無し	0	
7 (II.3a.19)	冷却塔ファンインバータ制御の導入	冷却塔ファンのインバータ制御が、冷却塔ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用	1	
8 (II.3a.20)	フリークリーリングシステムの導入	有効に機能するフリークリーリングシステムが導入されているか。	採用	1	
9 (II.3a.25)	空調2次ポンプの送水圧力設定制御の導入	空調2次ポンプの送水圧力設定制御が、空調2次ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用	1	
10 (II.3b.13)	CO ₂ 濃度による外気量制御の導入	CO ₂ 濃度による外気量制御が、空調用総外気導入量(厨房用を除く。)に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用	1	
11 (II.3b.26)	デシカント空調システムの導入	デシカント空調システムが、空調用総外気導入量(厨房用を除く。)に対して、どの程度の割合で導入されているか。	50%未満に採用又は採用無し	0	
12 (II.3c.4)	照明のゾーニング制御の導入	照明の点滅区分の細分化と、主たる廊下、エントランスホール、駐車場等の間引きによるゾーニング制御がどの程度導入されているか。	採用無し	0	
13 (II.3c.5)	高効率変圧器の導入	超高効率変圧器が、600Vを超える7,000V以下の総変圧器容量に対して、どの程度の割合で導入されているか。	採用	1	

2 建築物環境計画書入力シート（第1号様式その17）

- 建築物環境計画書の該当部分は以下に示す部分

【2020年度様式】

1(1)ア 建築物外皮の熱負荷抑制

第1 環境への配慮のための措置及びその取組状況		最も大きい用途			
1 エネルギー使用の合理化		適用する			
(1) 建築物の熱負荷の低減					
ア 建築物外皮の熱負荷抑制					
(ア)PAL*低減率の計算方法		適用する	段階1		
(イ) a PAL*低減率	%	BPI (BPIm)			
b PAL*の値	MJ/m ² ・年				
c PAL*の基準値	MJ/m ² ・年				
(ウ)省エネルギー性能目標値 (PAL*低減率)	%	条例第17条の4に規定するエネルギー使用の合理化に関する性能目標値			
(エ)外壁の熱貫流率	W/(m ² ・K)				
(オ)屋根の熱貫流率	W/(m ² ・K)				
(カ)開口部の熱貫流率	W/(m ² ・K)				
(キ)窓の日射熱取得率 (η)	-				

モデル建物法の場合、BPI(BPIm)の数値

標準入力法の場合、PAL*の値及びPAL*の基準値の数値を建築物環境計画書入力シートの該当部分に入力

1(3)ア 設備システムの高効率化

③省エネルギーシステム		適用する		段階1					
ア 設備システムの高効率化		適用する		段階1					
(ア)ERRの計算方法									
(イ) a ERR									
b 設計一次エネルギー消費量	%	BEI (BEIm)							
c 基準一次エネルギー消費量	GJ/年								
(ウ)ZEBに係る事項									
(エ)省エネルギー性能目標値 (ERR)	%	条例第17条の4に規定するエネルギー使用の合理化に関する性能目標値							
空調		換気	照明	給湯	昇降機				
(オ) a 設備別の一次エネルギー消費量の状況					その他				
b 設備別設計一次エネルギー消費量					GJ/年				
c 設備別基準一次エネルギー消費量					GJ/年				
(カ)熱源・熱源補機・熱搬送に係る事項	高効率熱源機器	熱源台数制御							

モデル建物法の場合、BEI(BEIm)の欄の数値

標準入力法の場合、設計一次エネルギー消費量及び基準一次エネルギー消費量の数値を建築物環境計画書入力シートの該当部分に入力

【2017年度様式】

I .1.1 建築物の形状・配置、外壁・屋根の断熱、窓部の熱負荷の低減

区分	細分	概要	詳細(構造、仕様、規格等)	評価基準の適用	評価基準の段階	評価
I 建築物の形状・配置、外壁・屋根の断熱、窓部の熱負荷の低減 [1]	建築物の形状・配置、外壁・屋根の断熱、窓部の熱負荷の低減 [1]	①建築物の形状及び配置に係る事項(外壁・屋根の断熱に配慮した建築物の形状及び各部の配置計画)(001)	(0)外壁の外観の仕様 外壁及び外壁の仕様	適用する	段階1 (記点0)	0 z
		②外壁及び屋根の断熱に係る事項(外壁や屋根を有する断熱材及び仕上げ材生地が既存するものを選択)(002)	外壁の仕様			
		▼▼選択して下さい▼	外壁の仕様			
		選択肢(003)	外壁の仕様			
		▼▼選択して下さい▼	外壁の仕様			
		選択肢(004)	外壁の仕様			
		▼▼選択して下さい▼	外壁の仕様			
		選択肢(005)	外壁の仕様			
③窓の断熱に係る事項(既存するものを選択)(006)	窓の仕様					
▼▼選択して下さい▼	窓の仕様					
選択肢(007)	窓の仕様					
④窓の断熱材へに係る事項(既存するものを選択)(008)	ガラスの種類(009)	ガラスの種類				
□既存	ガラスの種類					
□ルーバー	ガラスの種類					
□その他	ガラスの種類					
⑤その他の算定(既存下の断熱熱量を利用した建築物の配置計画、温度又は外壁の二重構造)(009)						
⑥PAL*の基準値(4)(B-A)/B(010)	PAL*の基準値(B-A)/B(年)	PAL*の基準値(B-A)/B(年)				
	(009) モデル建物法の合理的な実現に対する性質の目標値 PAL*の基準値(4)B(年)	(010) モデル建物法の合理的な実現に対する性質の目標値 PAL*の基準値(4)B(年)				

PAL*の値及びPAL*の基準値の数値

を建築物環境計画書入力シートの該当部分に入力

I .3.1 設備システムの省エネルギー

全体	特定建築物の住宅以外の基準一次エネルギー消費量[GJ/年](A)×0.57	特定建築物の住宅以外の設計一次エネルギー消費量[GJ/年](B)×0.58
	設備システム全体のエネルギー利用の低減率(ERR) [%]×0.59 ※(その他一次エネルギー消費量は除く)	
	(参考) ※エネルギーの使用の合理化に関する性能の目標値(ERR) [%]×0.60	

特定建築物の住宅以外の基準一次エネルギー消費量

特定建築物の住宅以外の設計一次エネルギー消費量の数値を建築物環境計画書入力シートの該当部分に入力

3 調書シート(第2号様式その1からその13)

共 通

すべてのシートにおいて、原則として調書に記入した設備機器の『種別』や『使用用途』と各評価項目の取組状況に不整合がある場合は、セルが赤くなるように設定されている。

設備機器及び取組状況の入力中にセルが赤くなった場合は、入力又は選択内容を再確認した上で、必要に応じて修正する。

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その3

空調用ポンプ																				
			最も古い設備の設置年度 2014 2013年度以降設置の設備の割合 100.0%																	
No	設置年度	機器記号	機器名称	No.21	No.22	No.23	No.20	—	II.3a.3	—	II.3a.10	II.3a.11	II.3a.13	II.3a.14	II.3a.15	II.3a.25				
				種別			電動機出力 [kW]		台数		永久磁石(IPM)モータ	プレミアム効率 (IE2)モータ	高効率 (IE3)モータ	インバータ制御	空調2次ポンプの台数制御及びインバータによる変流量制御	空調2次ポンプの台数制御又はインバータによる変流量制御				
				空調2次ポンプ	空調1次ポンプ	冷却水ポンプ									空調2次ポンプの末端差圧制御	空調2次ポンプの送水圧力設定制御				
取組状況の程度				—	—	—	—	—	48%	6%	47%	—	100%	100%	93%	73%	100%			
合計				343.5kW	195.0kW	310.0kW	848.5kW	30台	403.5kW	55.0kW	400.0kW	718.5kW	同一モーターで2つの仕様が選択されているため、該当の欄が赤くなっている。					0.0kW		
1	2014	CDP-TR-1	ターボ冷凍機用冷却水ポンプ		○	30.0	1													
2	2014	CP-TR-1	ターボ冷凍機用冷水ポンプ	○		15.0	1													
3	2014	PCD-TR-1	ターボ冷凍機用冷却水ポンプ		○	55.0	1													
4	2014	PC-TR-1	ターボ冷凍機用冷水ポンプ	○		30.0	1													
5	2014	PCD-RH-1-3	直焚吸収冷温水機用冷水ポンプ		○	75.0	3													
6	2014	PCH-RH-1-3	直焚吸収冷温水機用冷水ポンプ	○		30.0	3													
7	2014	PC-HEX-1	蓄熱槽冷水1次ポンプ	○		30.0	1	○												
8	2014	PC-HEX-2	蓄熱槽冷水2次ポンプ	○		30.0	1	○												
9	2014	PC-L-1-3	冷水低層系統2次ポンプ	○		11.0	3	○										○		
10	2014	PH-L-1-3	温水低層系統2次ポンプ	○		11.0	3	○										○		
11	2014	PC-M-1-3	冷水中層系統2次ポンプ	○		22.0	3	○										○		
12	2014	PH-M-1-3	温水中層系統2次ポンプ	○		18.5	3	○										○		
13	2014	PC-H-1-3	冷水高層系統2次ポンプ	○		30.0	3	○										○		
14	2014	PH-H-1-3	温水高層系統2次ポンプ	○		22.0	3	○										○		
15																				
16																				
17																				
18																				
19																				
20																				
21																				
22																				
23																				
24																				
25																				
26																				
27																				
28																				
29																				
30																				

空調2次ポンプの行で、II.3a.13
空調1次ポンプの台数制御又はインバータ制御による変流量制御の欄に“○”印が記入されているため、該当の欄が赤くなっている。

空調用ポンプ																				
			最も古い設備の設置年度 2014 2013年度以降設置の設備の割合 100.0%																	
No	設置年度	機器記号	機器名称	No.21	No.22	No.23	No.20	—	II.3a.3	—	II.3a.10	II.3a.11	II.3a.13	II.3a.14	II.3a.15	II.3a.25				
				種別			電動機出力 [kW]		台数		永久磁石(IPM)モータ	プレミアム効率 (IE2)モータ	高効率 (IE3)モータ	インバータ制御	空調2次ポンプの台数制御又はインバータによる変流量制御	空調1次ポンプの台数制御又はインバータによる変流量制御				
				空調2次ポンプ	空調1次ポンプ	冷却水ポンプ									空調2次ポンプの末端差圧制御	空調2次ポンプの送水圧力設定制御				
取組状況の程度				—	—	—	—	—	48%	0%	47%	—	100%	100%	31%	73%	100%			
合計				343.5kW	195.0kW	310.0kW	848.5kW	30台	403.5kW	0.0kW	400.0kW	718.5kW	343.5kW	343.5kW	60.0kW	225.0kW	343.5kW	0.0kW		
1	2014	CDP-TR-1	ターボ冷凍機用冷却水ポンプ		○	30.0	1													
2	2014	CP-TR-1	ターボ冷凍機用冷水ポンプ	○		15.0	1													
3	2014	PCD-TR-1	ターボ冷凍機用冷却水ポンプ		○	55.0	1													
4	2014	PC-TR-1	ターボ冷凍機用冷水ポンプ	○		30.0	1													
5	2014	PCD-RH-1-3	直焚吸収冷温水機用冷水ポンプ		○	75.0	3											○		
6	2014	PCH-RH-1-3	直焚吸収冷温水機用冷水ポンプ	○		30.0	3													
7	2014	PC-HEX-1	蓄熱槽冷水1次ポンプ	○		30.0	1	○												
8	2014	PC-HEX-2	蓄熱槽冷水2次ポンプ	○		30.0	1	○												
9	2014	PC-L-1-3	冷水低層系統2次ポンプ	○		11.0	3	○										○		
10	2014	PH-L-1-3	温水低層系統2次ポンプ	○		11.0	3	○										○		
11	2014	PC-M-1-3	冷水中層系統2次ポンプ	○		22.0	3	○										○		
12	2014	PH-M-1-3	温水中層系統2次ポンプ	○		18.5	3	○										○		
13	2014	PC-H-1-3	冷水高層系統2次ポンプ	○		30.0	3	○										○		
14	2014	PH-H-1-3	温水高層系統2次ポンプ	○		22.0	3	○										○		
15																				
16																				
17																				
18																				
19																				
20																				
21																				
22																				
23																				
24																				
25																				
26																				
27																				
28																				
29																				
30																				

“○”印を削除すると、該当の欄が元に戻る。

熱源機器シート(第2号様式その1)

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その1

熱源機器										電動系熱源機は、原則として、主電動機ではなく、定格消費電力を入力する。														
										なお、熱回収ヒートポンプユニット及び熱回収ターボ冷凍機の場合は、冷熱源及び温熱源共に、熱回収運転時の冷凍能力及び加熱能力の合計値に対する定格消費電力とする。														
認定ガイドラインの熱源機種の判断基準を参考し、熱源機器を選択する。			最も古い設備の設置年度			2014			最も新しい設備の設置年度			2014			II 3a.1									
熱源機種			No.2			No.4			No.5			No.6			II 3a.1									
最大供給能力対象			水冷熱源機器			蒸気ボイラー			熱源容量[kW]			台数			定格エネルギー消費量			再生可能エネルギー			インバーターポート冷凍機			
冷熱源			冷却能力			加熱能力			冷熱源			温熱源			エネルギー種別			冷熱源			温热源			
○程度			—			—			—			—			—			—			—			
13.537kW			5.808kW			13.010kW			0kW			16.174kW			5.808kW			7台			—			
1 2014 TR-1 ターボ冷凍機			○			2,637			1			412			[kW]電気			0GJ/年			—			
2 2014 RH-1 直焚吸収冷温水機			○ ○ ○			2,461			1,936			1			6,570			7,965 [MJ/h]ガス			—			
3 2014 RH-2 直焚吸収冷温水機			○ ○ ○			2,461			1,936			1			6,570			7,965 [MJ/h]ガス			—			
4 2014 RH-3 直焚吸収冷温水機			○ ○ ○			2,461			1,936			1			6,570			7,965 [MJ/h]ガス			—			
5 2014 AR-1 温水吸収冷凍機			○ ○ ○			351			1			1,805			[MJ/h]温水			○			—			
6 2014 TR-2 ターボ冷凍機			○ ○ ○			2,637			1			412			[kW]電気			○			—			
3,165			1			—			—			—			—			0GJ/年			—			
熱源機器は評価対象外であるが、最大供給能力対象の場合のみ入力する。			○			—			—			—			—			—			—			
ガスの単位発热量[GJ/千Nm3]は年度によって異なるため、2005～2006年度より古い機器は注意して入力する。(認定ガイドライン別表第2 参照)			—			—			—			—			—			—			—			
該当する機種は「○」印を選択する。			—			—			—			—			—			—			—			
すべて把握していない場合は、空欄とする。			—			—			—			—			—			—			—			
熱源システムの最大供給能力に含まれる場合に「○」印を選択する。			—			—			—			—			—			—			—			
30			—			—			—			—			—			—			—			

冷却塔シート(第2号様式その2)

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その2

冷却塔										開放式冷却塔の場合、電動機出力の散水ポンプの欄は空欄のまます。										II 3a.2		II 3a.9		II 3a.19			
最も古い設備の設置年度			2014			2013年度以降設置の設備の割合				100.0%			II 3a.2										II 3a.9		II 3a.19		
No.	設置年度	機器記号	機器名称			No.9	—	—	—	No.18	No.19	—	電動機出力[kW]	ファン	散水ポンプ	台数	省エネ形	モータ直結形ファン	永久磁石(IPM)モータ	プレミアム効率(E2)モータ	高効率(E3)モータ	永久磁石(IPM)モータ	プレミアム効率(E2)モータ	高効率(E3)モータ	冷却塔ファン等の台数制御(単体11kW以上)	ボールチエリバータ制御(単体11kW以上)	冷却塔ファンのインバータ制御
取組状況の程度																											
合計			0kW			0.0kW			0.0kW			17,699.8kW			112.0kW			4台			112.0kW			0.0kW			
1 2014 CT-TR-1 ターボ冷凍機用冷却塔			○			3,636.4			22.0			1			○			○			—			○			
2 2014 CT-RH-1-3 冷温水発生機用冷却塔			○			4,687.8			30.0			3			○			○			—			○			
3			—			—			—			—			—			—			—			—			
4			—			—			—			—			—			—			—			—			
5			—			—			—			—			—			—			—			—			
6			—			—			—			—			—			—			—			—			
7			—			—			—			—			—			—			—			—			
8			—			—			—			—			—			—			—			—			
9			—																								

空調用ポンプシート(第2号様式その3)

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その3

No	設置年度	機器記号	機器名称	最も古い設備の設置年度		2014		2013年度以降設置の設備の割合		100.0%													
				種別			電動機出力 [kW]	台数	II 3a.3			インバータ制御	II 3a.10			II 3a.11		II 3a.13		II 3a.14		II 3a.15	
				空調2次ポンプ	空調1次ポンプ	冷却水ポンプ			永久磁石(IPM)モータ	プレミアム効率(IE3)モータ	高効率(IE2)モータ		空調2次ポンプの合数制御台以上に分割又はインバータによる変流量制御	空調2次ポンプの合数制御台以上に分割又はインバータによる変流量制御	空調1次ポンプの合数制御又はインバータによる変流量制御	冷却水ポンプの合数制御又はインバータによる変流量制御	空調2次ポンプの末端差圧制御	空調2次ポンプの送水圧力設定制御					
取組状況の程度				—	—	—	—	—	48%	0%	47%	—	100%	100%	31%	73%	100%	0%					
合計				343.5kW	195.0kW	310.0kW	848.5kW	30台	403.5kW	0.0kW	400.0kW	718.5kW	343.5kW	343.5kW	60.0kW	225.0kW	343.5kW	0.0kW					
1	2014	CDP-TR-1	ターボ冷凍機用冷却水ポンプ	○	30.0	1																	
2	2014	CP-TR-1	ターボ冷凍機用冷水ポンプ	○	15.0	1																	
3	2014	PCD-TR-1	ターボ冷凍機用冷却水ポンプ	○	55.0	1																	
4	2014	PC-TR-1	ターボ冷凍機用冷水ポンプ	○	30.0	1																	
5	2014	POD-RH-1-3	直焚吸収冷温水機用冷却水ポンプ	○	75.0	3														○			
6	2014	PH-RH-1-3	直焚吸収冷温水機用冷温水ポンプ	○	30.0	3																	
7	2014	PC-HEX-1	蓄熱槽冷水1次ポンプ	○	30.0	1	○												○				
8	2014	PC-HEX-2	蓄熱槽冷水2次ポンプ	○	30.0	1	○												○				
9	2014	PC-L-1-3	冷水低層系統2次ポンプ	○	11.0	3	○												○				
10	2014	PH-L-1-3	温水低層系統2次ポンプ	○	11.0	3	○												○				
11	2014	PC-M-1-3	冷水中層系統2次ポンプ	○	22.0	3	○												○				
12	2014	PH-M-1-3	温水中層系統2次ポンプ	○	18.5	3	○												○				
13	2014	PC-H-1-3	冷水高層系統2次ポンプ	○	30.0	3	○												○				
14	2014	PH-H-1-3	温水高層系統2次ポンプ	○	22.0	3	○												○				
15																							
16																							
17																							
18																							
19																							
20																							
21																							
22																							
23			認定ガイドラインを参照し、該当する種別に「○」印を選択する。						該当する場合は「○」印を選択する。														
24																							
25																							
26																							
27																							
28																							
29																							
30																							

空調機シート(第2号様式その4、その5)

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その4

空調機その1				最も古い設備の設置年度		2014		2013年度以降設置の設備の割合		100.0%		外調機は、送風量と外気導入量の数値によって自動的に判定される。													
No	設置年度	機器記号	機器名称	—	—	No.6	—	No.24	—	No.26	—	—	No.30	—	No.7	II 3b.1									
				送風量 [m³/h]	外気導入量 [m³/h]	冷却能力 [kW]	加熱能力 [kW]	ファン電動機出力 [kW]	台数	空調機(外調機、エレベーター機械室、電気室を除く。)	エレベーター機械室、電気室	24時間空調外気導入	厨房用外気導入	医療施設用外気導入	ファンイルニット	ダブルプラグファン	プラグファン	モータ直結形ファン	ECモータ・永久磁石(IPM)モータ	プレミアム効率(IE3)モータ	高効率(IE2)モータ	橿円管熱交換器			
取組状況の程度				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	18%	80%	99%	78%	21%	0%	0%			
1	2014	AC-TER-B3F	3F待高電気室	12,800	80.0	7.5	2	○											○	○					
2	2014	AC-ER-B3F	3F電気室1	10,400	65.0	5.5	2	○											○	○					
3	2014	OAC-SP4-3-B1F	B1F店舗1~3	6,080	6,080	66.4	62.4	3.7	3										○	○					
4	2014	OAC-SP4-10-B1F	B1F店舗4~10	12,300	12,300	134.2	126.2	11.0	7										○	○					
5	2014	AC-EH-B1F	2Fエントランスホール	6,300	2,530	59.9	32.2	7.5	1	○									○	○					
6	2014	AC-EH-1F	2Fエントランスホール	9,400	1,780	59.3	36.4	7.5	1	○									○	○					
7	2014	AC-OEH-2F	2Fオフィスエントランスホール	27,300	4,110	189.1	130.2	18.5	1	○									○	○					
8	2014	AC-CE-3F	3F会議場エントランス	24,600	4,440	143.7	112.3	11.0	1	○									○	○					
9	2014	AC-DK-3F	3F大会議室	13,800	9,180	102.7	23.6	7.5	2	○									○	○					
10	2014	AC-CK-3F	3F中小会議室	3.90						22	3								○	○					
11	2014	AC-4-33F	4~33F事務室外調機	9,800						5.5	20								○	○					
12	2014	AC-II-4-33F	4~33F事務室1イントリア	6.90						3.7	30	○							○	○					
13	2014	AC-IP-4-33F	4~33F事務室1ヘリメータ	2.00						0.75	30	○							○	○					
14	2014	AC-2L-4-33F	4~33F事務室2イントリア	6.90						3.7	30	○							○	○					
15	2014	AC-2P-4-33F	4~33F事務室2ヘリメータ	2,000		6.8	4.8	0.75		30	○								○	○					
16	2014	AC-3L-4-33F	4~33F事務室3イントリア	6,900		50.9	25.8	3.7		30	○								○	○					
17	2014	AC-3P-4-33F	4~33F事務室3ヘリメータ	2,000		6.8	4.8	0.75		30	○								○	○					
18	2014	AC-4I-4-33F	4~33F事務室4イントリア	6,900		50.9	25.8	3.7		30	○								○	○					
19	2014	AC-4P-4-33F	4~33F事務室4ヘリメータ	2,000		6.8	4.8	0.75		30	○								○	○					
20	2014	OAC-34F	34F事務室外調機	9,800	9,800	81.5	2	1	○										○	○					
21	2014	AC-1I-34F	34F事務室1イントリア	6,900		50.9	2	1	○										○	○					
22	2014	AC-1P-34F	34F事務室1ヘリメータ	2,000		6.8													○	○					
23	2014	AC-2L-34F	34F事務室2イントリア	6,900		50.9	2	1	○										○	○					
24	2014	AC-2P-34F	34F事務室2ヘリメータ	2,000		6.8	4.8	0.75	1	○									○	○					
25	3L-34F	34F事務室3イントリア	6,900		50.9	25.8	3.7	1	○										○	○					
26	3P-34F</td																								

パッケージ空調機(第2号様式その6)

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その6

パッケージ形空調機												2012年度以前の設置機器の場合は選択可能																
No	設置年度	機器記号	機器名称	最も古い設備の設置年度 2014			2013年度以降設置の設備の割合 100.0%			II 3b.2			II 3b.3			II 3b.20			II 3b.32			II 3b.33						
				種別			冷房能力 [kW]	暖房能力 [kW]	外気導入量 [m³/h]	台数	使用用途			高効率機器			GHP+E	冷媒配管の長さ (片道) [m]	屋外機の設水システム	ウオーミングアップ時の外気遮断制御	空調機の気化式加湿器による外気量制御	CO2濃度による外気量制御	全熱交換器	厨房外機の風量モード切換制御	厨房外機の換気モード切換制御			
				空気熱源	水熱源	電気式					24時間空調外気導入	厨房用外気導入	医療施設用外気導入	通年エネルギー消費効率APF	冷暖房平均COP	シバーク制御	高効率冷媒R410A	冷媒配管の長さ (片道) [m]	屋外機の設水システム	ウオーミングアップ時の外気遮断制御	空調機の気化式加湿器による外気量制御	CO2濃度による外気量制御	全熱交換器	厨房外機の風量モード切換制御	厨房外機の換気モード切換制御			
取組状況の程度				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0%	96%	0%	0%	0%	0%	<36m	100%	0%	—	—	—			
合計				283.0kW	0.0kW	283.0kW	0.0kW	784.0kW	1.067.0kW	81.5kW	0m³/h	22台	0m³/h	0m³/h	0.0kW	1.025.0kW	0.0kW	0.0kW	0.0kW	—	1.087.0kW	0.0kW	0m³/h	0m³/h	0m³/h	0m³/h		
1	2014	GACP-BC-1	1F防災センター	○	○	○	45.0	50.0	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	<90m	○	—	—	—	—	—	
2	2014	GACP-MP-B-1	B1FMDF室	○	○	○	28.0	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	<30m	○	—	—	—	—	—	
3	2014	GACP-EH12-1	PHF電気室	○	○	○	56.0	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	<30m	○	—	—	—	—	—	
4	2014	GACP-EV12-1	PHF ELV機械室	○	○	○	28.0	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	<30m	○	—	—	—	—	—	
5	2014	GACP-EV4-1	PHF ELV機械室E	○	○	○	28.0	31.5	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	<60m	○	—	—	—	—	—	
6	2014	GACP-EV4-1	PHF ELV機械室E2	○	○	○	14.0	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	<60m	○	—	—	—	—	—	
7	2014	ACP-1	サーバー室	○	○	○	56.0	—	—	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	<60m	○	—	—	—	—	—	
8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
機器名称は、使用用途が分かるように、系統名又は対象室等を必ず記入する。				該当する場合は「○」印を選択する。												必ず選択する。												
認定ガイドラインを参照し、該当する種別に「○」印を選択する。				除外したい場合のみ「○」印を選択する。												該当する場合は「○」印を選択する。												
26	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
28	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
29	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
31	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

ファンシート(第2号様式その7)

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その7

ファン												2013年度以降設置の設備の割合 100.0%												II 3b.3			II 3b.4			II 3b.13			II 3b.18			II 3b.32			II 3b.35		
No	設置年度	機器記号	機器名称	最も古い設備の設置年度 2014			送風量 [m³/h]	電動機出力 [kW]	台数	使用用途			モータ直結形ファン	ECモータ・永久磁石(IPM)モータ	プレミアム効率(IE3)モータ	高効率(IE2)モータ	II 3b.3			II 3b.4			II 3b.13			II 3b.18			II 3b.32			II 3b.35									
				—	No.10	—				—	—	No.30	—				24時間空調用外気導入	厨房用外気導入	医療施設用外気導入	自走式駐車場用																					
				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—											
取組状況の程度				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—											
合計				580,500m³/h	—	179.3kW	—	111台	—	0m³/h	0m³/h	0m³/h	0m³/h	53.5kW	—	—	—	23.0kW	0.0kW	163.8kW	0.0kW	—	—	—	—	100%	—	—	—	—	—										
1	2014	FS-MR-B3F	B3F機械室給気	33,000	7.5	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—									
2	2014	FE-MR-B3F	B3F機械室排気	33,000	7.5	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—									
3	2014	FS-WT-B3F	B3F受水槽室給気	9,900	3.7	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—									
4	2014	FE-WT-B3F	B3F受水槽室排気	9,900	2.2	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—									
5	2014	FS-WS-B3F	B3F中水処理室給気	6,200	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—								
6	2014	FE-WS-B3F	B3F中水処理室排気	6,200	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—								
7	2014	FS-FP-B3F	B3F消火ポンプ室給気	4,900	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—							
8	2014	FE-FP-B3F	B3F消火ポンプ室排気	4,900	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—							
9	2014	FS-TER-B3F	B3F特高電気室給気	12,300	3.7	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—						
10	2014	FE-TER-B3F	B3F特高電気室排気	12,300	3.7	1	—	—																																	

照明器具_標準入力シート(第2号様式その8の1)

照明器具の評価を標準入力で行う場合に記入する。

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その8

No	器具番号	主たる室用途	室名称等	床面積[m ²]	No.12 事務室の 床面積 [m ²]	客室の 床面積 [m ²]	教室の 床面積 [m ²]	研究室の 床面積 [m ²]	用途の床 面積比率	省エネルギー計算書の書式 を基に入力することができる ようになっている		II 3c.1				II 3c.3		II 3c.8	
										主たるランプ種類	1台当たりの消費電力[W]	台数	消費電力[W]	消費電力[W/m ²]	照明の初期照度補正制御	照明の昼光利用照明制御			
		取組状況の程度		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	98%	98%		
		合計		94.491m ²	62.080m ²	0m ²	0m ²	0m ²	201.8%	-	-	-	-	-	-	61.144m ²	61.144m ²		
1	O402	倉庫	AG:更衣室又は倉庫	45					0.0%	LED	71	4	284	6					
2	O401	倉庫	AG:更衣室又は倉庫	134					0.1%	LED	37	9	333	2					
3	O401	倉庫	AG:更衣室又は倉庫	128					0.1%	LED	37	7	259	2					
4	L402	事務室	AA:事務室	24	○				0.0%	LED	71	6	426	18					
5	dLE2001	事務室	AA:事務室	32	○				0.0%	LED	20	15	299	9					
6	dLE1001	エントランスホール	AI:ロビー	62					0.1%	LED	11	24	266	4					
7	L402	事務室	AA:事務室	67	○				0.1%	LED	71	14	994	15					
8	O401	倉庫	AG:更衣室又は倉庫	85					0.1%	LED	37	10	370	4					
9	O401	倉庫	AG:更衣室又は倉庫	45					0.0%	LED				5					
10	L402	事務室	AA:事務室	74	○				0.1%	LED				14					
11	O402	倉庫	AG:更衣室又は倉庫	57					0.1%	LED				5					
12		エントランスホール	AI:ロビー	102					0.1%										
13	dLE1001	エントランスホール	AI:ロビー							LED	11	5	56						
14	dLE2001	エントランスホール	AI:ロビー							LED	20	28	557						
15	L402	事務室	AA:事務室	47	○				0.0%	LED	71	9	639	14					
16	O402	事務室	FF:事務室	64	○				0.1%	LED	71	12	852	13					
17	O322	飲食店舗客席	FB:軽食店の客室	193					0.2%	直管形蛍光ランプHf(FHF,FHC)	87	6	522	3					
18	O322	物販店舗	DB:専門店の売場	424					0.4%	直管形蛍光ランプHf(FHF,FHC)	87	14	1,218	3					
19		エントランスホール	FI:ロビー	768					0.8%										
20	dLE19†	エントランスホール	FI:ロビー							LED	20	68	1,353						
21	dLE19†	エントランスホール	FI:ロビー							LED	20	21	418						
22	dLE19†	エントランスホール	FI:ロビー							LED	20	63	1,254						
23	dLE19†	エントランスホール	FI:ロビー							LED	20	30	597						
24	dLE14†	エントランスホール	FI:ロビー							LED	14	8	112						
25	dLE35	エントランスホール	FI:ロビー							LED	36	30	1,065						
26	dLE53	エントランスホール	FI:ロビー							LED	54	18	963						
27		事務室	AA:事務室	264	○				0.3%										
28	L402	事務室	AA:事務室		○					LED	71	54	3,834						
29	A205	事務室	AA:事務室		○					LED	68	4	272						
30	dLE19†	事務室	AA:事務室		○					LED	20	2	40						

例1 照明パターンが複数ある場合に、最も大きい床面積の消費電力で評価する場合(主たるランプ種類が1つ)

照明器具の調書において、物販店舗等で照明パターンが複数ある場合は、最も大きい床面積の消費電力としてもよいとされています。その場合は、床面積に合計床面積を記入し、台数を1として、1台あたりの消費電力[W]の欄に、最も大きい店舗の消費電力[W/m²]×合計床面積の値を記入します。結果として、消費電力[W/m²]が最も大きい店舗の数値と一致します。例として、下記のように物販店舗が複数ある場合の評価方法の例を示します。

店舗名	床面積[m ²]	照明器具[W/個]	台数	消費電力[W/m ²]	合計床面積600[m ²]×12[W/m ²]=7200を記入。	結果12[W/m ²]となる。
物販店舗A	300	40	90	12		
物販店舗B	200	20	100	10		
物販店舗C	100	40	30	12		
合計	600	-	220	11.3		

記入例 その1

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その8

No	器具番号	主たる室用途	主たる室用途を選択。		No.12 事務室の 床面積 [m ²]	No.13 客室の 床面積 [m ²]	No.14 教室の 床面積 [m ²]	No.15 研究室の 床面積 [m ²]	主たる室 用途の床 面積比率	II 3c.1				II 3c.3		II 3c.8	
			室名称等	床面積[m ²]						主たるランプ種類	1台当たりの消費電力[W]	台数	消費電力[W]	消費電力[W/m ²]	照明の初期照度補正制御	照明の昼光利用照明制御	
		取組状況の程度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	99%	99%	
		合計		94.236m ²	61.882m ²	0m ²	0m ²	0m ²	100.0%	-	-	-	-	-	61.144m ²	61.144m ²	
1	物販店舗	A.B.C		600					0.6%	LED	7.200	1	7.200	12			
2																	
3																	

床面積は合計床面積。

台数は1。

例2 照明パターンが複数ある場合に、最も大きい床面積の消費電力で評価する場合の例(複数の主たるランプ種類がある場合)

主たる室用途の床面積を合計床面積で記入し、主たるランプ種類ごとに行を分けて記入します。台数はそれぞれ1として、1台あたりの消費電力[W]の欄に、ランプの消費電力[W/台]×台数[台]÷最も大きいものの床面積[m²]×合計床面積[m²]とする。

物販店舗が複数ある場合で、ランプ種類が複数ある場合の調書入力方法の例を示します。

物販店舗の照明器具一覧の例

店舗名	床面積 [m ²]	ランプ種類	消費電力 [W/台]	台数 [台]	消費電力 W/m ²	合計消費電力 [W]	最も大きい店舗
店舗 1	1800	LED	28	500	7.8	14,000	店舗 1
		高効率LED	20	400	4.4	8,000	
店舗 2	1500	LED	30	300	6.0	9,000	店舗 2
		高効率LED	20	400	5.3	8,000	
店舗 3	500	LED	30	200	12.0	6,000	
店舗 4	500	直管型蛍光ランプHf	68	150	20.4	10,200	
店舗 5	900	直管型蛍光ランプHf	35	200	7.8	7,000	
店舗 6	600	高効率LED	22	200	4.9	4,400	
合計	5800				11.5	66,600	

合計床面積。

記入例 その2

消費電力の合計÷床面積((45,111W+25,778W)÷5800m²=12.2W/m²)を行うと、最も大きい店舗の消費電力[W/m²]の数値と一致する。

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その8

No	器具番号	主たる室用途	主たる室用途を選択。		床面積 [m ²]	事務室の 床面積 [m ²]	No.12	No.13	No.14	No.15	主たる室 用途の床 面積比率	II 3c.1				II 3c.3	II 3c.8
			室名称等	主たるランプ種類								1台当たりの消費 電力 [W]	台数	消費 電力 [W]	消費 電力 [W/m ²]		
		取組状況の程度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	99%	99%
		合計	96,777m ²	61,507m ²	0m ²	0m ²	0m ²	0m ²	100.0%	—	—	—	—	—	—	61,144m ²	61,144m ²
1	物販店舗	低層専門店売り場	5,800							6.0%	LED	45,111	1	45,111			
2											高効率LED	25,778	1	25,778			
3																	
4																	
5		床面積は合計床面積。															
6																	
7																	
8																	

主たるランプ種類ごとに
行を分けて記入する。

台数は1。

- 主たるランプ種類1行目(LED) =28W/台 × 500台 ÷ 1800m²(代表店舗の床面積) × 5800m²(物販店舗全体の床面積合計) = 45,111W
- 主たるランプ種類2行目(高効率LED) =20W/台 × 400台 ÷ 1800m² × 5800m² = 25,778W

照明器具_簡易入力シート(第2号様式その8の2)

照明器具の評価を簡易入力で行う場合に記入する。

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その8の2

用途	主たる室用途	床面積 [m ²]	No.12	No.13	No.14	No.15	主たる室用途の床面積比率	II 3c.1		II 3c.3	II 3c.8
			事務室の床面積 [m ²]	客室の床面積 [m ²]	教室の床面積 [m ²]	研究室の床面積 [m ²]		主たるランプ種類	消費電力 [W/m ²]	照明の初期照度補正制御	照明の昼光利用照明制御
取組状況の程度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	72%	72%
合計	78,520m ²	48,420m ²	0m ²	0m ²	0m ²	—	—	—	—	34,862m ²	34,862m ²
共通	エントランスホール	2,700					2.7%	直管形蛍光ランプFFLR,FSL	10.0		
	廊下	9,300					9.3%	直管形蛍光ランプHf(FHF,FHC)	10.0		
	便所	4,500					4.5%	直管形蛍光ランプHf(FHF,FHC)	10.0		
	倉庫										
	駐車場	8,000					8.0%	直管形蛍光ランプHf(FHF,FHC)	10.0		
	事務室	48,420					48.4%	直管形蛍光ランプHf(FHF,FHC)	10.0	72%に採用	72%に採用
	会議室										
商業施設	電算室	600					0.6%	直管形蛍光ランプHf(FHF,FHC)	10.0		
	物販店舗	500					0.5%	直管形蛍光ランプHf(FHF,FHC)	10.0		
	飲食店舗客席	1,050					1.1%	直管形蛍光ランプHf(FHF,FHC)	10.0		
	飲食店舗厨房	450					0.5%	直管形蛍光ランプHf(FHF,FHC)	10.0		
	店舗通路	800					0.8%	直管形蛍光ランプHf(FHF,FHC)	10.0		
宿泊施設	ホテルロビー										
	客室										
	客室廊下										
	宴会場										
教育施設	教室						消費電力[W/m ²]を記入する。				
	大教室										
	研究室										
	体育館										
医療施設	病室	300					0.3%	直管形蛍光ランプHf(FHF,FHC)	10.0		
	診察室	100					0.1%	直管形蛍光ランプHf(FHF,FHC)	10.0		
文化施設	会議場	1,200					1.2%	直管形蛍光ランプHf(FHF,FHC)	10.0		
	ロビー・ホワイエ	400					0.4%	直管形蛍光ランプHf(FHF,FHC)	10.0		
	楽屋	200					0.2%	直管形蛍光ランプHf(FHF,FHC)	10.0		
物流施設	物流倉庫										
その他	屋内競技場										
	屋外競技場										
	屋外							LED			

変圧器シート(第2号様式その9)

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その9

該当する場合は
「○」印を選択す
る

該当する場合は
「○」印を選択す
る

給水ポンプシート(第2号様式その10)

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その10

該当する場合は
「○」印を選択す
る。

昇降機シート(第2号様式その11)

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その11

該当する場合は
「○」印を選択す
る

冷凍・冷蔵設備シート(第2号様式その12)

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その12

冷凍・冷蔵設備

No	室名称	機器記号	機器名称	No.40	No.16	—	II 3f.3					
				冷凍設備	圧縮機電動機出力 [kW]	台数	冷凍庫壁面の高断熱化	前室の導入	搬入口近接センサーによる扉の自動開閉化	着霜制御(デフロスト)	圧縮機入口ガス管の断熱化	冷却器用ファンの台数制御
				—	—	—	—	—	—	—	—	—
				合計	0.0kW	0.0kW	0台	0.0kW	0.0kW	0.0kW	0.0kW	0.0kW
1												
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
16												
17												
18												
19												
20												
21												
22												
23												
24												
25												
26												
27												
28												
29												
30												

床面積が1.6 m²以上の冷凍・冷蔵設備の室名称、機器記号、機器名称、圧縮機電動機出力及び台数を記入し、冷凍設備の場合、「○」印を選択する。
ごみ用の冷蔵設備は、評価の対象に含めなくてもよい。

該当する場合は
「○」印を選択す
る。

調書作成シートに
入力すると、自動
的に集計される。

空調設備集計シート(第2号様式その13)

第2号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その13

空調設備集計

種別	No.1	No.3	No.9	No.27	No.28	No.30	No.31
	建物全体の総冷熱源容量(地域冷暖房受入を含む。)	建物全体の総温熱源容量(地域冷暖房受入を含む。)	水熱源パッケージ形空調機総冷却能力	空調用総外気導入量(24時間空調部 分を除く。)	空調用総外気導入量(厨房用を除く。)	厨房用総外気導入量	ファン総電動機出力
合計	12,544kW	5,998kW	0kW	451,060m ³ /h	364,960m ³ /h	86,100m ³ /h	1,100.2kW
熱源機器	10,549kW	5,808kW	—	—	—	—	—
冷却塔	—	—	0kW	—	—	—	—
空調機	12,261kW	5,916kW	—	451,060m ³ /h	364,960m ³ /h	86,100m ³ /h	920.9kW
空気熱源パッケージ形空調機	283kW	82kW	—	0m ³ /h	0m ³ /h	0m ³ /h	—
水熱源パッケージ形空調機	0kW	0kW	0kW	0m ³ /h	0m ³ /h	0m ³ /h	—
ファン	—	—	—	0m ³ /h	0m ³ /h	0m ³ /h	179.3kW
種別	II 3b.4	II 3b.10	II 3b.13	II 3b.20	II 3b.32	II 3b.33	II 3b.35
	ウォーミングアップ時の外気遮断制御の導入	空調機の気化式加湿器の導入	CO ₂ 濃度による外気量制御の導入	全熱交換器の導入	厨房外調機・ファンの風量モード切換制御の導入	厨房外調機の換気モード切換制御	ファンの手動調整用インバータの導入
取組状況の程度	96%	90%	88%	0%	0%	0%	27%
合計	432,820m ³ /h	328,800m ³ /h	322,160m ³ /h	0m ³ /h	0m ³ /h	0m ³ /h	300.1kW
空調機	432,820m ³ /h	328,800m ³ /h	322,160m ³ /h	0m ³ /h	0m ³ /h	0m ³ /h	254.1kW
パッケージ形空調機	0m ³ /h	0m ³ /h	0m ³ /h	0m ³ /h	0m ³ /h	0m ³ /h	—
ファン	—	—	—	—	0m ³ /h	—	46.0kW

4 評価書シート(第1号様式その1)

総合的な評価結果の確認

- ・入力が全て終了すると、認定申請事業所の地球温暖化対策推進状況の評価結果が、評価書シートに表示される。
 - ・総合得点及び必須要件によって、認定申請事業所がトップレベル事業所等の認定水準を満足しているどうか確認できる。
 - ・要求事項別の評価結果から、認定申請事業所において優れている点や、今後重点的に取組むべき対策等が確認できる。

評価結果確認用シート

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その1

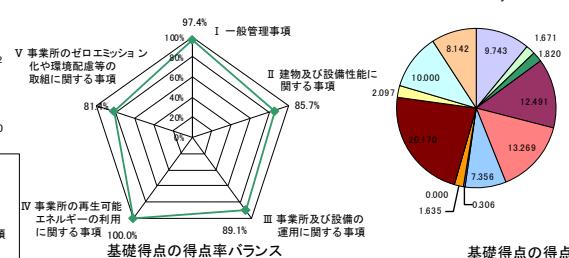
地球温暖化対策推進状況評価書(第一区分事業所)

事業所の概要

指定番号	220000								
事業者の氏名	東京環境不動産株式会社 代表取締役社長 東京 太郎								
事業所の名称	東京環境不動産ビルディング								
主たる用途	テナントビル		事務所	商業施設(物販)	商業施設(飲食)	医療施設	情報通信施設	文化・娯楽施設	駐車場
敷地面積	14,000	m ²	延床面積又は事業所の床面積	100,000	m ²	棟数	1 棟		
階数 地上	34	階	最も古い建物の竣工年月	2011年4月		最も新しい建物の竣工年月	2014年4月		
基準排出量	6,500	t-CO ₂ /年	前年度CO ₂ 排出量実績	2,633	t-CO ₂ /年	26.3	kg-CO ₂ /m ² ・年		
			前年度一次エネルギー消費量実績	130,000	GJ/年	1,300	MJ/m ² ・年		

総合評価結果

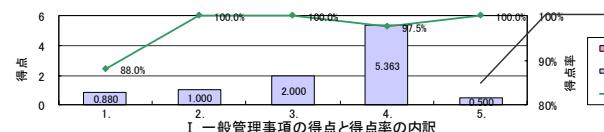
基礎得点	88.6	点	不合格要件の数	1
総合得点	106.1	点	I ~ III	1
判定	Silver		IV・V	0



トップレベル事業所の認定水準を満足しているかどうか、結果が出力される。

要求事項別の評価結果

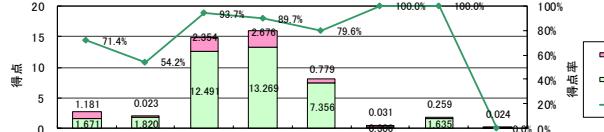
- I 一般管理事項
 - 1. CO₂削減推進体制の整備
 - 2. 図面、管理標準等の整備
 - 3. 主要設備等に関する計測・計量及び記録
 - 4. エネルギー消費量・CO₂排出量の管理
 - 5. 保守・点検の管理



要求事項別の評価結果が表示されるので、今後、重点的に取組む削減対策の参考にすることが可能である

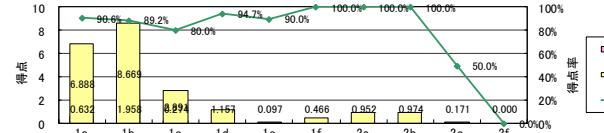
II 建物及び設備性能に関する事項

1. 自然エネルギーの利用
 2. 建物外皮の省エネルギー性能
 3. 設備・制御系の省エネルギー性能
 - a. 熱源・熱搬送設備
 - b. 空調・換気設備
 - c. 照明・電気設備
 - d. 給排水・給湯設備
 - e. 异降機設備
 - f. その他



III 事業所及び設備の運用に関する事項

1. 運用管理
 - a. 热源・热搬运設備
 - b. 空調・換気設備
 - c. 照明・電気設備
 - d. 給排水・給湯設備
 - e. 昇降機設備
 - f. その他
 2. 保守管理
 - a. 热源・热搬运設備



※「高齢者の不適可能行為」の利用に関する実験

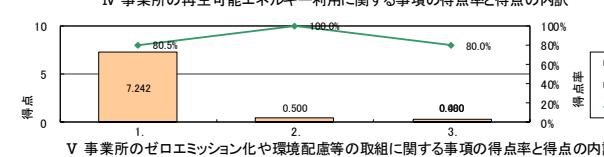
- 業所の再生可能エネルギーの利用に関する事項

 1. オンサイトの再生可能エネルギーの利用
 2. オフサイトの再生可能エネルギーの利用
 3. 電気需給契約等による再生可能エネルギーの利用
 4. 電気需要最適化



V. 商業所のガロエニシコン化や環境配慮策の取組に関する考察

- 1.CO₂排出・エネルギー消費等の削減
 - 2.気候変動適応策
 - 3.その他の環境配慮の取組



5 評価結果シート(第1号様式その3からその6)

評価項目ごとの評価分類、評価点、重み係数、得点の確認

- 各評価項目の不合格の要件、評価点、重み係数、得点、評価項目の区分ごとの得点集計を確認する。
- 取組が優れている評価項目や、今後重点的に取組むべき評価項目が確認できる。
- 評価分類欄の、◎印は必須項目、○印は一般項目、+印は加点項目を示す。

評価結果確認用シート

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所)その3

地球温暖化対策推進状況評価結果一覧表(第一区分事業所)

評価項目の区分		評価分類	No.	緩和措置が適用された評価項目は、評価分類が変更となる。	不適合要件	評価点	重み係数	得点	得点集計
I	1. CO2削減推進体制の整備	◎	1.1	CO2削減推進会議等の設置及び開催					
一般管理事項	2. 図面、管理標準等の整備	◎	1.2	PDCA管理サイクルの実施体制の整備		1	0.400	0.400	
		◎	2.1	図面・改修履歴等の整備		1			
		◎	2.2	設備台帳等の整備		1			
		◎	2.3	管理標準等の整備		1			
		◎	2.4	省エネルギー計画書の整備		1			
3. 主要設備等に関する計測・計量及び記録	3.1 ビルエネルギー・マネジメントシステム(BEMS)等の導入	◎	3.1	ビルエネルギー・マネジメントシステム(BEMS)等の導入		1	0.500	0.500	2.000
		◎	3.2	電力負荷状況・発電状況等の把握に必要な計測・計量設備の導入		1	0.200	0.200	+0.000
		◎	3.3	エネルギー消費先別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入		1	0.400	0.400	
		◎	3.4	系統別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入		1	0.300	0.300	
		◎	3.5	エネルギー供給設備の分析に必要な計測・計量設備の導入		1	0.300	0.300	
		◎	3.6	代表階又は代表エリアの使用量把握に必要な計測・計量設備の導入		1	0.300	0.300	
		+	3.7	空調の使用量に応じた課金体系の導入		0	0.320	0.000	
	4. エネルギー消費量・CO2排出量の管理	◎	4.1	エネルギー消費特性の把握、エネルギー消費原単位の算出及び管理		1	0.220	0.220	5.500
		◎	4.2	CO2排出量の管理		1	0.110	0.110	+0.000
		◎	4.3	CO2削減目標の設定、CO2削減対策計画の立案及び実績の集約・評価の実施		1	1.100	1.100	
		◎	4.4	CO2削減対策の啓発活動の実施		1	0.220	0.220	
		◎	4.5	エネルギー供給設備の運転解析の実施		1	0.550	0.550	
		◎	4.6	改善策の立案・実施及び効果検証の実施		1	1.100	1.100	
		◎	4.7	コミッショニング(性能検証)の実施		1	1.925	1.925	
5. 保守・点検の管理		◎	4.8	利用者への環境・エネルギー情報提供システムの導入		1	0.275	0.275	
		+	4.9	ZEB(ゼロ・エネルギー・ビル)化へのロードマップの策定と実行		0	0.220	0.000	
II 建物及び設備性能に関する事項	1. 自然エネルギーの利用	◎	5.1	保守・点検計画の策定及び実施		1	0.500	0.500	0.500
		○	1.1	自然採光を利用したシステムの導入		0.2	1.088	0.218	3.137
		○	1.2	自然通風を利用したシステムの導入		1	1.958	1.958	+0.000
		○	1.3	再生可能エネルギー・未利用エネルギー・システムの導入		1	0.962	0.962	
		+	1.4	太陽熱を利用したシステムの導入		0	0.047	0.000	
		+	1.5	年間を通して安定した地中温度を利用したシステムの導入		0	0.095	0.000	
	2. 建物外皮の省エネルギー性能	○	2.1	高性能な建物外皮の導入		0.904	4.016	3.631	3.973
		○	2.2	風除室、回転扉等による隙間風対策の導入		0.95	0.236	0.224	+0.030
		○	2.3	屋上緑化の導入		1	0.118	0.118	
		+	2.4	ブラインドの日射制御及びスケジュール制御の導入		0.8	0.038	0.030	
		+	2.5	壁面緑化の導入		0	0.071	0.000	
III 設備・制御系の省エネルギー性能	3. a. 热源・熱搬送設備	◎	3a.1	高効率熱源機器の導入		0.953	8.598	8.194	13.769
		◎	3a.2	高効率冷却塔の導入		0.85	0.497	0.422	+1.450
		◎	3a.3	高効率空調用ポンプの導入		0.9	0.770	0.693	
		◎	3a.4	蒸気ボイラーのエコノマイザーの導入		-	-	-	
		◎	3a.5	大温度差送水システムの導入		1	0.852	0.852	
		◎	3a.6	水搬送経路の密閉化		1	0.568	0.568	
		◎	3a.7	蒸気弁・フランジ部の断熱		-	-	-	
		◎	3a.8	熱源の台数制御の導入		1	0.457	0.457	
		◎	3a.9	冷却塔ファン等の台数制御又は発停制御の導入		1	0.154	0.154	
		◎	3a.10	空調2次ポンプ変流量制御の導入		1	0.639	0.639	
		○	3a.11	空調2次ポンプの適正容量分割又は小容量ポンプの導入		1	0.391	0.391	
		○	3a.12	熱源機器出口設定温度の遠方制御の導入		1	0.183	0.183	
		○	3a.13	空調1次ポンプ変流量制御の導入		0.5	0.474	0.237	
		○	3a.14	冷却水ポンプ変流量制御の導入		0.8	0.512	0.409	
		○	3a.15	空調2次ポンプの末端差圧制御の導入		1	0.355	0.355	
		○	3a.16	熱交換器の断熱		1	0.213	0.213	
		+	3a.17	蓄熱システムの導入		1	1.450	1.450	
		+	3a.18	高効率コージェネレーションの導入		0	1.450	0.000	
		+	3a.19	冷却塔ファンインバータ制御の導入		0	0.123	0.000	
		+	3a.20	フリークリーリングシステムの導入		0	0.302	0.000	
		+	3a.21	潜熱利用搬送システムの導入		0	0.426	0.000	
		+	3a.22	配管摩擦低減剤(DR剤)の導入		0	0.426	0.000	
		+	3a.23	中温冷水利用システムの導入		0	0.488	0.000	
		+	3a.24	統合熱源制御システムの導入		0	0.976	0.000	
		+	3a.25	空調2次ポンプの送水圧力設定制御の導入		0	0.142	0.000	
		+	3a.26	エネルギーの面的利用の導入		0	0.488	0.000	

必須項目及び一般項目の得点

加点項目の得点

6 基本情報シート

- 認定申請事業所の対象評価項目についての基本情報と適用範囲補正係数の確認が可能なシートである。
- 認定申請事業所において、評価に必要となる基本情報として、適用範囲補正係数(設備機器等の適用範囲により各評価項目の省エネ率を補正するもの)の算出に使用する数値、又は取組状況の程度を設定する際の分母となる数値を示す。なお、メインシートと調書を作成することで、自動的に数値が入力される。

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その7

評価結果確認用シート

基本情報		評価項目 No.	適用範囲補正係数・評価項目	評価対象	数値	単位
適用範囲補正 係数に関する 評価対象	1	—	熱源、冷却塔、空調機、パッケージ、ファンコイル	建物全体の総冷熱源容量(地域冷暖房受入を含む。)	12,571	kW
	2	—	熱源	熱源機器総冷却能力(地域冷暖房受入を含む。)	10,549	kW
	3	—	蒸気ボイラー	建物全体の総温熱源容量(地域冷暖房受入を含む。)	6,338	kW
	4	—	冷却塔	水冷熱源機器総冷却能力	10,021	kW
	5	—	蒸気ボイラー	蒸気ボイラーグループ加熱能力	—	kW
	6	—	空調機	空調機総冷却能力	12,288	kW
	7	—	ファンコイル	ファンコイルユニット総冷却能力	227	kW
	II 3b.14	ファンコイルユニットの比例制御の導入			283	kW
	8	—	パッケージ	空気熱源/パッケージ形空調機総冷却能力	—	kW
	9	—	冷却塔、パッケージ	水熱源/パッケージ形空調機総冷却能力	—	kW
	10	—	駐車場	ファン(空調機内に設置されているものを除く。)総電動機出力	179.3	kW
	II 3b.3	高効率ファンの導入			179.3	kW
	11	—	駐車場	自走式駐車場ファン総電動機出力	53.5	kW
	II 3b.18	駐車場ファンのCO ₂ 又はCO ₂ 濃度制御の導入			53.5	kW
	12	—	事務室・客室、事務室・教室、事務室・研究室	主たる事務室の床面積	62,080	m ²
熱源・熱搬送設備	13	—	事務室・客室	主たる客室の床面積	—	m ²
	14	—	事務室・教室、事務室・教室・研究室	主たる教室の床面積	—	m ²
	15	—	事務室・教室・研究室	主たる研究室の床面積	—	m ²
	16	—	冷凍・冷蔵	冷凍・冷蔵設備の圧縮機総電動機出力	—	kW
	II 3f.3	高効率冷凍・冷蔵設備の導入			112.0	kW
	17	II 3f.6	クリーンルーム	高効率クリーンルームの床面積	—	m ²
	18	II 3a.2	高効率冷却塔の導入	冷却塔ファン総電動機出力	—	kW
	II 3a.9	冷却塔ファン等の台数制御又は発停制御の導入			112.0	kW
	II 3a.19	冷却塔ファンバータ制御の導入			112.0	kW
	19	II 3a.2	高効率冷却塔の導入	冷却塔散水ポンプ総電動機出力	—	kW
	20	II 3a.3	高効率空調用ポンプの導入	空調用ポンプ総電動機出力	848.5	kW
	21	II 3a.10	空調2次ポンプ変流量制御の導入	空調2次ポンプ総電動機出力	—	kW
空調・換気設備	II 3a.11	空調2次ポンプの適正容量分割又は小容量ポンプの導入			343.5	kW
	II 3a.15	空調2次ポンプの末端差圧制御の導入			343.5	kW
	II 3a.25	空調2次ポンプの送水圧力設定制御の導入			195.0	kW
	22	II 3a.13	空調1次ポンプ変流量制御の導入	空調1次ポンプ総電動機出力	310.4	kW
	23	II 3a.14	冷却水ポンプ変流量制御の導入	冷却水ポンプ総電動機出力	933.9	kW
	24	II 3b.1	高効率空調機の導入	空調機ファン総電動機出力	263.0	kW
	25	II 3b.2	高効率パッケージ形空調機の導入	パッケージ形空調機総冷却能力	—	kW
	26	II 3b.8	空調機の変風量システムの導入	空調機ファン総電動機出力(外調機、エレベーター機械室及び電気室を除く。)	624.3	kW
	II 3b.21	大温度差送風空調システムの導入			624.3	kW
	II 3b.31	空調機の間欠運転制御の導入			451,060	m ³ /h
照明・電気設備	27	II 3b.4	ウォーミングアップ時の外気遮断制御の導入	空調用総外気導入量(24時間空調部分を除く。)	364,960	m ³ /h
	28	II 3b.10	空調機の化水式加湿器の導入	空調用総外気導入量(厨房用を除く。)	—	m ³ /h
	II 3b.13	CO ₂ 濃度による外気量制御の導入			364,960	m ³ /h
	II 3b.20	全熱交換器の導入			86,100	m ³ /h
	II 3b.26	デシカント空調システムの導入			1,113.2	kW
	29	II 3b.23	放射冷暖房空調システムの導入	主たる居室の床面積	70,078	m ²
	II 3b.25	潜熱・顯熱分離方式省エネ空調システムの導入			70,078	m ²
	II 3b.27	ハイブリッド空調システムの導入			86,100	m ³ /h
	30	II 3b.32	厨房外調機・ファンの風量モード切換制御の導入	厨房総外気導入量	—	m ³ /h
	II 3b.33	厨房外調機の換気モード切換制御の導入			1,113.2	kW
照明・電気設備	31	II 3b.35	ファンの手動調整用インバータの導入	ファン総電動機出力	62,080	m ²
	32	II 3c.3	照明の初期照度補正制御の導入	主たる事務室・教室の床面積	—	m ²
給排水・給湯設備	33	II 3c.8	照明の昼光利用照明制御の導入	—	600Vを超える1,000V以下の総変圧器容量	kVA
	34	II 3d.1	高効率変圧器の導入	600Vを超える1,000V以下の総変圧器容量	11,700.0	kVA
	35	II 3d.1	高効率給水ポンプの導入	加圧給水ポンプユニット総電動機出力	45.0	kW
昇降機設備	36	II 3e.1	エレベーターの可変電圧可変周波数制御方式の導入	給水ポンプ総電動機出力	380.4	kW
	II 3e.4	エレベーターの電力回生制御の導入			1,302.0	kW
	37	II 3e.2	エレベーターの群管理制御の導入	複数台設置してある箇所のエレベーター総電動機出力	1,208.0	kW
	38	II 3e.3	エレベーターかご内の照明、ファン等の不使用時停止制御の導入	全エレベーター台数	22.0	台
	39	II 3e.5	エスカレーターの自動運転方式又は微速運転方式の導入	エスカレーター総電動機出力	29.5	kW
その他設備	40	II 3f.3	高効率冷凍・冷蔵設備の導入	冷凍設備の圧縮機総電動機出力	—	kW

メインシートと調書を作成することで、数値は自動的に入力される。

熱源	No.2	10,549	kW	／	No.1	12,571	kW	=	0.839
冷却塔	(No.4	10,021	kW	+	No.9	12,571	kW	=	0.797
蒸気ボイラー	No.5	—	kW	／	No.3	6,338	kW	=	0
空調機	No.6	12,288	kW	／	No.1	12,571	kW	=	0.977
パッケージ	(No.8	283	kW	+	No.9	12,571	kW	=	0.023
ファンコイル	No.7	227	kW	／	No.1	12,571	kW	=	0.078
駐車場	No.11	53.5	kW	／	No.10	179.3	kW	=	0.298
情報通信									0.044
事務所									0.775
厨房									0.054
事務室・客室	(No.12	62,080	m ²	+	No.13	m ²	／	=	0.621
事務室・教室	(No.12	62,080	m ²	+	No.14	100,000	m ²	=	0.621
事務室	No.12	62,080	m ²	／					0.621
事務室・教室・研究室	(No.12	62,080	m ²	+	No.14	150,000	GJ/年	=	0.621
冷凍・冷蔵	No.16	—	kW × 9.76 × 1700／						0
クリーンルーム	No.17	m ²	× 4	／	100,000	m ²	=		0

メインシートと調書を作成することで、適用範囲補正係数が自動的に算定される。

7 重み係数シート

評価項目ごとの重み係数の内訳の確認

- ・評価項目ごとの重み係数の内訳を確認する。
- ・メインシートの入力事項と、基本情報入力シートの適用範囲補正係数が、正しく反映されているかを適用範囲補正係数の欄で確認する。

評価結果確認用シート

地球温暖化対策推進状況評価 重み係数一覧表(第一区分事業所)

※ 評価分類の欄の○印は必須項目、□印は一般項目、+印は加点項目を示す。

評価項目の区分	評価分類	No.	評価項目	要求事項配分比率又は エネルギー消費先比率	要求事項内 の配分比率 又は省エネ率	用途 補正 係数	適用 範囲 補正 係数	得点換算 係数	重み係数		
I	1. CO2削減推進体制の整備	○ 1.1	CO2削減推進会議等の設置及び開催	0.1	0.6	1	1	10.000	0.600		
		○ 1.2	PDCA管理サイクルの実施体制の整備		0.4	1	1	10.000	0.400		
一般 管 理 事 項	2. 図面、管理標準等の整備	○ 2.1	図面・改修履歴等の整備	0.1	0.3	1	1	10.000	0.300		
		○ 2.2	設備台帳等の整備			0.3	1	1	10.000	0.300	
		○ 2.3	管理標準等の整備			0.3	1	1	10.000	0.300	
		○ 2.4	省エネルギー計画書の整備			0.1	1	1	10.000	0.100	
		3. 主要設備等に関する計測・計量及び記録	○ 3.1	ビルエネルギー・マネジメントシステム(BEMS)等の導入	0.2	0.25	1	1	10.000	0.500	
			○ 3.2	電力負荷状況・発電状況等の把握に必要な計測・計量設備の導入			0.1	1	1	10.000	0.200
			○ 3.3	エネルギー消費先別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入			0.2	1	1	10.000	0.400
			○ 3.4	系統別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入			0.15	1	1	10.000	0.300
			○ 3.5	エネルギー供給設備の分析に必要な計測・計量設備の導入			0.15	1	1	10.000	0.300
			○ 3.6	代表階又は代表エリアの使用量把握に必要な計測・計量設備の導入			0.15	1	1	10.000	0.300
		+ 3.7	空調の使用量に応じた課金体系の導入			0.2	1	1	8.000	0.320	
	4. エネルギー消費量・CO2排出量の管理	○ 4.1	エネルギー消費特性の把握、エネルギー消費原単位の算出及び管理	0.55	0.04	1	1	10.000	0.220		
		○ 4.2	CO2排出量の管理			0.02	1	1	10.000	0.110	
		○ 4.3	CO2削減目標の設定、CO2削減対策計画の立案及び実績の集約・評価の実施			0.2	1	1	10.000	1.100	
		○ 4.4	CO2削減対策の啓発活動の実施			0.04	1	1	10.000	0.220	
		○ 4.5	エネルギー供給設備の運転解析の実施			0.1	1	1	10.000	0.550	
		○ 4.6	改善策の立案・実施及び効果検証の実施			0.2	1	1	10.000	1.100	
		○ 4.7	コミッショニング(性能検証)の実施			0.35	1	1	10.000	1.925	
		○ 4.8	利用者への環境・エネルギー情報提供システムの導入			0.05	1	1	10.000	0.275	
		+ 4.9	ZEB(ゼロ・エネルギー・ビル)化へのロードマップの策定と実行		0.05	1	1	8.000	0.220		
	5. 保守・点検の管理	○ 5.1	保守・点検計画の策定及び実施	0.05	1	1	1	10.000	0.500		

8 評価結果貼付用シート

- ・地球温暖化対策推進状況評価ツール(第一区分事業所)【複数管理者用】の作成時のみ使用する。
- ・使用方法については、第2章を参照する。

評価結果確認用シート

地球温暖化対策推進状況評価結果一覧表(第一区分事業所)【複数管理者用貼付用】

※ 評価分類の欄の○印は必須項目、□印は一般項目、+印は加点項目を示す。

不合格の要件の欄の×印は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない場合を示す。

評価項目の区分	No.	評価項目	評価分類	不合格要件	得点	最高得点	
I	1. CO2削減推進体制の整備	1.1 CO2削減推進会議等の設置及び開催	○		0.480	0.600	
		1.2 PDCA管理サイクルの実施体制の整備	○		0.400	0.400	
一般 管 理 事 項	2. 図面、管理標準等の整備	2.1 図面・改修履歴等の整備	○		0.300	0.300	
		2.2 設備台帳等の整備	○		0.300	0.300	
		2.3 管理標準等の整備	○		0.300	0.300	
		2.4 省エネルギー計画書の整備	○		0.100	0.100	
		3. 主要設備等に関する計測・計量及び記録	3.1 ビルエネルギー・マネジメントシステム(BEMS)等の導入	○		0.500	0.500
			3.2 電力負荷状況・発電状況等の把握に必要な計測・計量設備の導入	○		0.200	0.200
			3.3 エネルギー消費先別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入	○		0.400	0.400
			3.4 系統別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入	○		0.300	0.300
			3.5 エネルギー供給設備の分析に必要な計測・計量設備の導入	○		0.300	0.300
			3.6 代表階又は代表エリアの使用量把握に必要な計測・計量設備の導入	○		0.300	0.300
		3.7 空調の使用量に応じた課金体系の導入	+		0.000		
	4. エネルギー消費量・CO2排出量の管理	4.1 エネルギー消費特性の把握、エネルギー消費原単位の算出及び管理	○		0.220	0.220	
		4.2 CO2排出量の管理	○		0.110	0.110	
		4.3 CO2削減目標の設定、CO2削減対策計画の立案及び実績の集約・評価の実施	○		1.100	1.100	
		4.4 CO2削減対策の啓発活動の実施	○		0.220	0.220	
		4.5 エネルギー供給設備の運転解析の実施	○		0.550	0.550	
		4.6 改善策の立案・実施及び効果検証の実施	○		1.100	1.100	
		4.7 コミッショニング(性能検証)の実施	○		1.925	1.925	
		4.8 利用者への環境・エネルギー情報提供システムの導入	○		0.275	0.275	
		4.9 ZEB(ゼロ・エネルギー・ビル)化へのロードマップの策定と実行	+		0.000		

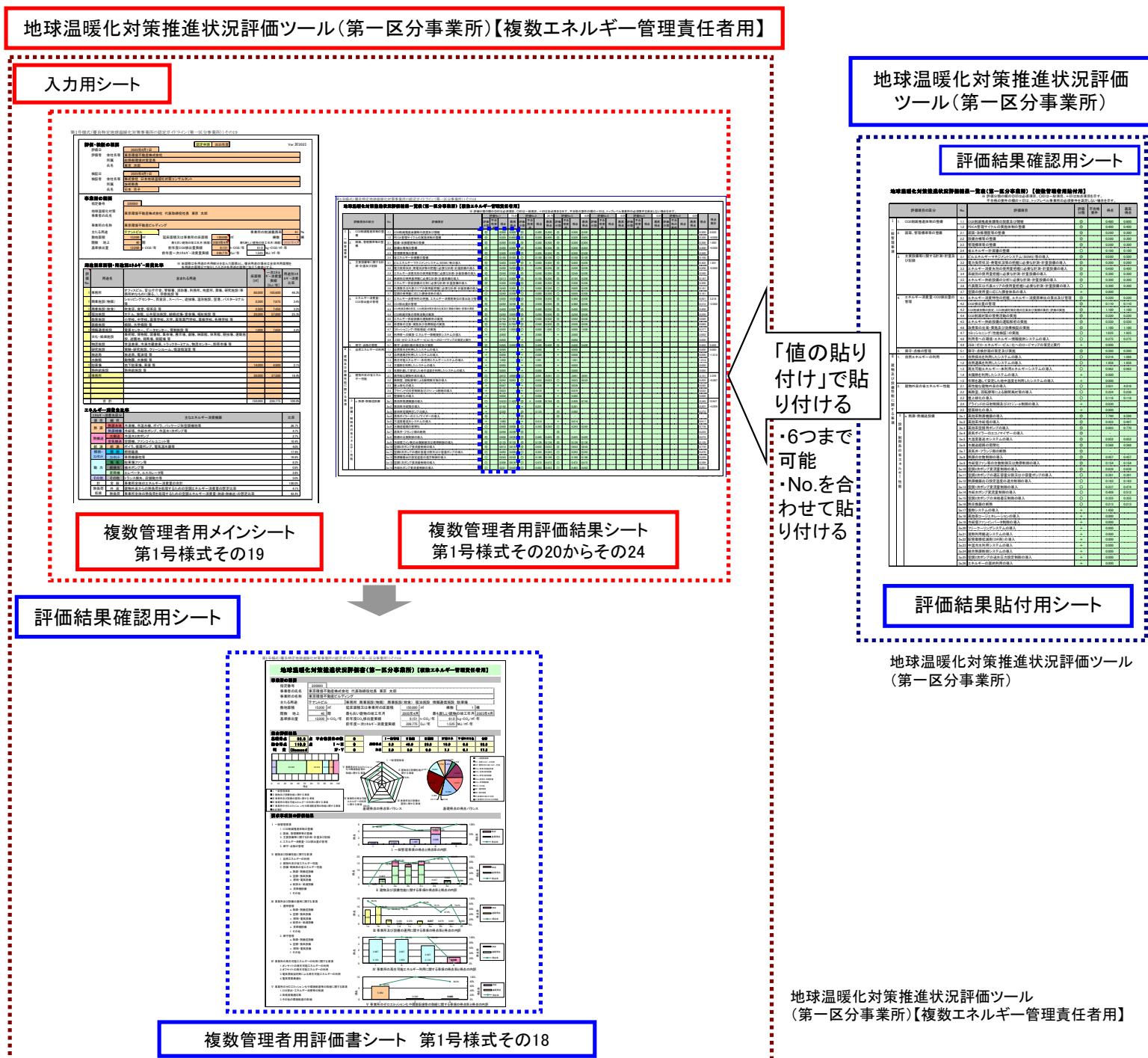
第2章 地球温暖化対策推進状況評価ツール(第一区分事業所)【複数エネルギー管理責任者用】

1 全体構成

1つの認定申請事業所に、複数のエネルギー管理責任者が存在し、評価項目の取組状況の一括した把握が難しい場合であって、エネルギー管理責任者ごとのエネルギー管理区分の範囲及びエネルギー管理区分ごとのエネルギー使用量が明確に区別できるときは、エネルギー管理責任者毎に地球温暖化対策推進状況評価書(第一区分事業所)を作成し、それぞれの評価結果を地球温暖化対策推進状況評価ツール(第一区分事業所)【複数エネルギー管理責任者用】(以下、「評価ツール(複数管理者用)」という。)を用いて集計することが可能である。

認定申請事業のエネルギー管理区分ごとに、地球温暖化対策推進状況評価ツール(第一区分事業所)を用いて評価した結果を、評価結果貼付用シートよりコピーし、評価ツール(複数管理者用)の評価結果シートに「値の貼り付け」で貼り付けることで、認定申請事業所全体の評価が可能である。

認定申請事業所としての各評価項目の得点は、エネルギー管理責任者ごとに算出された評価項目ごとの得点を、エネルギー管理責任者ごとのエネルギー消費量が認定申請事業所全体のエネルギー消費量に占める割合で加重平均した数値となる。



2 各シートの記入要領及び記入例

地球温暖化対策推進状況評価ツール（第一区分事業所）【複数エネルギー管理責任者用】のファイルを開くと、複数管理者用メニューインシートが表示される。

1 複数管理者用メインシート(第1号様式その19)

<p>第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所)その19)</p> <p>評価・検証の概要</p> <table border="1"> <tr> <td>評価日 評価者 会社名等 所属 氏名</td> <td>2025年6月1日 東京環境不動産株式会社 総務部環境対策室長 東京 次郎</td> <td>認定申請 2025年度</td> <td>Ver.IV2025</td> </tr> <tr> <td>検証日 検証者 会社名等 所属 氏名</td> <td>2025年8月1日 株式会社 日本地球温暖化対策コンサルタント 技術部長 日本 花子</td> <td>「2020」のように半角数字を入力する。</td> <td></td> </tr> </table> <p>評価者は、認定申請事業所全体の評価ツールの作成責任者とする。</p> <p>事業所の概要</p> <table border="1"> <tr> <td>指定番号 220000</td> <td>東京環境不動産株式会社 代表取締役社長 東京 太郎</td> <td>認定申請事業所全体の数値を入力する。</td> </tr> <tr> <td>事業所の名称 東京環境不動産ビルディング</td> <td>テナントビル 延床面積又は事業所の床面積 15,000 m² 40 階 12,000 t-CO₂/年</td> <td>事業所の削減義務率 4% %</td> </tr> <tr> <td>主たる用途 敷地面積 階数 地上 基準排出量</td> <td>最も古い建物の竣工年月(西暦) 2005年4月 前年度CO₂排出量実績 9,151 t-CO₂/年 前年度一次エネルギー消費量実績 228,775 GJ/年</td> <td>棟数 1 棟 最も新しい建物の竣工年月(西暦) 2005年4月 61.0 kg-CO₂/m²・年 1,525 MJ/m²・年</td> </tr> </table> <p>年月の入力欄は、「2012/4」のように、「年(西暦)/月」と入力する。</p> <p>用途別床面積・用途別エネルギー消費比率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価No.</th> <th>用途名</th> <th>含まれる用途</th> <th>床面積 [m²]</th> <th>一次エネルギー消費量実績 [GJ/年]</th> <th>用途別エネルギー消費比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 事務所</td> <td>・エネルギー管理責任者ごとの評価結果に評価No.を割り振る。 ・用途別床面積の評価No.の欄にある黄色のセルから、各用途に該当する評価No.を選択する。</td> <td>消防署、刑務所、拘置所、斎場、研究施設(事等) バー、遊技場、温浴施設、空港、バスターミナル</td> <td>80,000 2,500</td> <td>105,600 7,875</td> <td>46.2% 3.4%</td> </tr> <tr> <td>1 商業施設(物販)</td> <td></td> <td></td> <td>2,500</td> <td>7,450</td> <td>3.3%</td> </tr> <tr> <td>1 商業施設(飲食)</td> <td></td> <td></td> <td>2,500</td> <td>7,450</td> <td>3.3%</td> </tr> <tr> <td>2 宿泊施設</td> <td>ホテル、旅館、公共宿泊施設、結婚式場、宴会場、福祉施設 等</td> <td></td> <td>20,000</td> <td>57,800</td> <td>25.3%</td> </tr> <tr> <td>教育施設</td> <td>小学校、中学校、高等学校、大学、高等専門学校、専修学校、各種学校 等</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医療施設</td> <td>病院、大学病院 等</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1 情報通信施設</td> <td>電算センター、データセンター、管制施設 等</td> <td></td> <td>1,000</td> <td>7,650</td> <td>3.3%</td> </tr> <tr> <td>文化・娯楽施設</td> <td>美術館、博物館、図書館、集会場、展示場、劇場、映画館、体育館、競技場、運動施設、遊園地、競馬場、競艇場 等</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>物流施設</td> <td>常温倉庫、冷凍冷蔵倉庫、トラックターミナル、物流センター、卸売市場 等</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>研究施設</td> <td>実験・研究施設、クリーンルーム、恒温恒湿室 等</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>放送局</td> <td>放送局、電波塔 等</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>水族館</td> <td>動物園、水族館 等</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1 駐車場</td> <td>地下駐車場、車庫 等</td> <td></td> <td>14,000</td> <td>4,900</td> <td>2.1%</td> </tr> <tr> <td>熱供給施設</td> <td>熱供給施設 等</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3 事務所</td> <td>エネルギー管理責任者ごとに同じ用途が存在する場合は、用途名の欄にある黄色のセルから、該当する用途を選択する。</td> <td></td> <td>30,000</td> <td>37,500</td> <td>16.4%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td>150,000</td> <td>228,775</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>それぞれの評価No.及び用途に応する一次エネルギー消費量の実績値を、一次エネルギー消費量実績の欄に必ず入力する。</p> <p>エネルギー消費先比率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>エネルギー消費先区分</th> <th>主なエネルギー消費機器</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>項目 細目</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>熱源</td> <td>冷凍機、冷温水機、ボイラ、パッケージ形空調機他等</td> <td>26.7%</td> </tr> <tr> <td>熱源補機</td> <td>冷却塔、冷却水ポンプ、冷温水1次ポンプ等</td> <td>4.7%</td> </tr> <tr> <td>熱搬送</td> <td>冷温水2次ポンプ</td> <td>2.7%</td> </tr> <tr> <td>空気搬送</td> <td>空調機、ファンコイルユニット等</td> <td>10.4%</td> </tr> <tr> <td>給湯</td> <td>ボイラ、循環ポンプ、電気温水器等</td> <td>4.0%</td> </tr> <tr> <td>照明・コンセント</td> <td>照明器具</td> <td>17.9%</td> </tr> <tr> <td>換気</td> <td>駆車場ファン等</td> <td>8.3%</td> </tr> <tr> <td>動力</td> <td>給排水 昇降機</td> <td>揚水ポンプ等 エレベータ、エスカレータ等</td> <td>0.9% 2.8%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>その他</td> <td>トランク損失、店舗動力等</td> <td>5.0%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>全般</td> <td>事業所全体のエネルギー消費量の合計</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>熱負荷低減</td> <td>外皮</td> <td>建物外皮からの熱負荷を処理するための空調エネルギー消費量(熱源+熱搬送)の想定比率</td> <td>4.1%</td> </tr> <tr> <td>熱負荷低減</td> <td>熱負荷</td> <td>事業所全体の熱負荷を処理するための空調エネルギー消費量(熱源+熱搬送)の想定比率</td> <td>43.4%</td> </tr> </tbody> </table>		評価日 評価者 会社名等 所属 氏名	2025年6月1日 東京環境不動産株式会社 総務部環境対策室長 東京 次郎	認定申請 2025年度	Ver.IV2025	検証日 検証者 会社名等 所属 氏名	2025年8月1日 株式会社 日本地球温暖化対策コンサルタント 技術部長 日本 花子	「2020」のように半角数字を入力する。		指定番号 220000	東京環境不動産株式会社 代表取締役社長 東京 太郎	認定申請事業所全体の数値を入力する。	事業所の名称 東京環境不動産ビルディング	テナントビル 延床面積又は事業所の床面積 15,000 m ² 40 階 12,000 t-CO ₂ /年	事業所の削減義務率 4% %	主たる用途 敷地面積 階数 地上 基準排出量	最も古い建物の竣工年月(西暦) 2005年4月 前年度CO ₂ 排出量実績 9,151 t-CO ₂ /年 前年度一次エネルギー消費量実績 228,775 GJ/年	棟数 1 棟 最も新しい建物の竣工年月(西暦) 2005年4月 61.0 kg-CO ₂ /m ² ・年 1,525 MJ/m ² ・年	評価No.	用途名	含まれる用途	床面積 [m ²]	一次エネルギー消費量実績 [GJ/年]	用途別エネルギー消費比率	1 事務所	・エネルギー管理責任者ごとの評価結果に評価No.を割り振る。 ・用途別床面積の評価No.の欄にある黄色のセルから、各用途に該当する評価No.を選択する。	消防署、刑務所、拘置所、斎場、研究施設(事等) バー、遊技場、温浴施設、空港、バスターミナル	80,000 2,500	105,600 7,875	46.2% 3.4%	1 商業施設(物販)			2,500	7,450	3.3%	1 商業施設(飲食)			2,500	7,450	3.3%	2 宿泊施設	ホテル、旅館、公共宿泊施設、結婚式場、宴会場、福祉施設 等		20,000	57,800	25.3%	教育施設	小学校、中学校、高等学校、大学、高等専門学校、専修学校、各種学校 等					医療施設	病院、大学病院 等					1 情報通信施設	電算センター、データセンター、管制施設 等		1,000	7,650	3.3%	文化・娯楽施設	美術館、博物館、図書館、集会場、展示場、劇場、映画館、体育館、競技場、運動施設、遊園地、競馬場、競艇場 等					物流施設	常温倉庫、冷凍冷蔵倉庫、トラックターミナル、物流センター、卸売市場 等					研究施設	実験・研究施設、クリーンルーム、恒温恒湿室 等					放送局	放送局、電波塔 等					水族館	動物園、水族館 等					1 駐車場	地下駐車場、車庫 等		14,000	4,900	2.1%	熱供給施設	熱供給施設 等					3 事務所	エネルギー管理責任者ごとに同じ用途が存在する場合は、用途名の欄にある黄色のセルから、該当する用途を選択する。		30,000	37,500	16.4%	合計			150,000	228,775	100.0%	エネルギー消費先区分	主なエネルギー消費機器	比率	項目 細目			熱源	冷凍機、冷温水機、ボイラ、パッケージ形空調機他等	26.7%	熱源補機	冷却塔、冷却水ポンプ、冷温水1次ポンプ等	4.7%	熱搬送	冷温水2次ポンプ	2.7%	空気搬送	空調機、ファンコイルユニット等	10.4%	給湯	ボイラ、循環ポンプ、電気温水器等	4.0%	照明・コンセント	照明器具	17.9%	換気	駆車場ファン等	8.3%	動力	給排水 昇降機	揚水ポンプ等 エレベータ、エスカレータ等	0.9% 2.8%	その他	その他	トランク損失、店舗動力等	5.0%	計	全般	事業所全体のエネルギー消費量の合計	100.0%	熱負荷低減	外皮	建物外皮からの熱負荷を処理するための空調エネルギー消費量(熱源+熱搬送)の想定比率	4.1%	熱負荷低減	熱負荷	事業所全体の熱負荷を処理するための空調エネルギー消費量(熱源+熱搬送)の想定比率	43.4%	<p>報告の際には、プルダウンから「報告」を選択する。</p> <p>報告 2021年度 認定年度 2020年度</p> <p>「報告」を選択すると認定年度の入力欄が表示される。</p>
評価日 評価者 会社名等 所属 氏名	2025年6月1日 東京環境不動産株式会社 総務部環境対策室長 東京 次郎	認定申請 2025年度	Ver.IV2025																																																																																																																																																																					
検証日 検証者 会社名等 所属 氏名	2025年8月1日 株式会社 日本地球温暖化対策コンサルタント 技術部長 日本 花子	「2020」のように半角数字を入力する。																																																																																																																																																																						
指定番号 220000	東京環境不動産株式会社 代表取締役社長 東京 太郎	認定申請事業所全体の数値を入力する。																																																																																																																																																																						
事業所の名称 東京環境不動産ビルディング	テナントビル 延床面積又は事業所の床面積 15,000 m ² 40 階 12,000 t-CO ₂ /年	事業所の削減義務率 4% %																																																																																																																																																																						
主たる用途 敷地面積 階数 地上 基準排出量	最も古い建物の竣工年月(西暦) 2005年4月 前年度CO ₂ 排出量実績 9,151 t-CO ₂ /年 前年度一次エネルギー消費量実績 228,775 GJ/年	棟数 1 棟 最も新しい建物の竣工年月(西暦) 2005年4月 61.0 kg-CO ₂ /m ² ・年 1,525 MJ/m ² ・年																																																																																																																																																																						
評価No.	用途名	含まれる用途	床面積 [m ²]	一次エネルギー消費量実績 [GJ/年]	用途別エネルギー消費比率																																																																																																																																																																			
1 事務所	・エネルギー管理責任者ごとの評価結果に評価No.を割り振る。 ・用途別床面積の評価No.の欄にある黄色のセルから、各用途に該当する評価No.を選択する。	消防署、刑務所、拘置所、斎場、研究施設(事等) バー、遊技場、温浴施設、空港、バスターミナル	80,000 2,500	105,600 7,875	46.2% 3.4%																																																																																																																																																																			
1 商業施設(物販)			2,500	7,450	3.3%																																																																																																																																																																			
1 商業施設(飲食)			2,500	7,450	3.3%																																																																																																																																																																			
2 宿泊施設	ホテル、旅館、公共宿泊施設、結婚式場、宴会場、福祉施設 等		20,000	57,800	25.3%																																																																																																																																																																			
教育施設	小学校、中学校、高等学校、大学、高等専門学校、専修学校、各種学校 等																																																																																																																																																																							
医療施設	病院、大学病院 等																																																																																																																																																																							
1 情報通信施設	電算センター、データセンター、管制施設 等		1,000	7,650	3.3%																																																																																																																																																																			
文化・娯楽施設	美術館、博物館、図書館、集会場、展示場、劇場、映画館、体育館、競技場、運動施設、遊園地、競馬場、競艇場 等																																																																																																																																																																							
物流施設	常温倉庫、冷凍冷蔵倉庫、トラックターミナル、物流センター、卸売市場 等																																																																																																																																																																							
研究施設	実験・研究施設、クリーンルーム、恒温恒湿室 等																																																																																																																																																																							
放送局	放送局、電波塔 等																																																																																																																																																																							
水族館	動物園、水族館 等																																																																																																																																																																							
1 駐車場	地下駐車場、車庫 等		14,000	4,900	2.1%																																																																																																																																																																			
熱供給施設	熱供給施設 等																																																																																																																																																																							
3 事務所	エネルギー管理責任者ごとに同じ用途が存在する場合は、用途名の欄にある黄色のセルから、該当する用途を選択する。		30,000	37,500	16.4%																																																																																																																																																																			
合計			150,000	228,775	100.0%																																																																																																																																																																			
エネルギー消費先区分	主なエネルギー消費機器	比率																																																																																																																																																																						
項目 細目																																																																																																																																																																								
熱源	冷凍機、冷温水機、ボイラ、パッケージ形空調機他等	26.7%																																																																																																																																																																						
熱源補機	冷却塔、冷却水ポンプ、冷温水1次ポンプ等	4.7%																																																																																																																																																																						
熱搬送	冷温水2次ポンプ	2.7%																																																																																																																																																																						
空気搬送	空調機、ファンコイルユニット等	10.4%																																																																																																																																																																						
給湯	ボイラ、循環ポンプ、電気温水器等	4.0%																																																																																																																																																																						
照明・コンセント	照明器具	17.9%																																																																																																																																																																						
換気	駆車場ファン等	8.3%																																																																																																																																																																						
動力	給排水 昇降機	揚水ポンプ等 エレベータ、エスカレータ等	0.9% 2.8%																																																																																																																																																																					
その他	その他	トランク損失、店舗動力等	5.0%																																																																																																																																																																					
計	全般	事業所全体のエネルギー消費量の合計	100.0%																																																																																																																																																																					
熱負荷低減	外皮	建物外皮からの熱負荷を処理するための空調エネルギー消費量(熱源+熱搬送)の想定比率	4.1%																																																																																																																																																																					
熱負荷低減	熱負荷	事業所全体の熱負荷を処理するための空調エネルギー消費量(熱源+熱搬送)の想定比率	43.4%																																																																																																																																																																					

2 複数管理者用評価結果シート (第1号様式その20からその24)

エネルギー管理責任者ごとの評価結果の入力

- エネルギー管理責任者(評価No.)ごとに、地球温暖化対策状況評価ツール(第一区分事業所)の評価結果貼付用シートの緑色のセルの部分をコピーする。
- 評価結果を地球温暖化対策推進状況評価ツール(第一区分事業所)【複数エネルギー管理責任者用】の複数管理者用評価結果シートの各評価No.の欄に「値の貼り付け」で貼り付ける。
- 操作方法は、メニューバーの「編集」→「形式を選択して貼り付け」→貼り付ける形式を「値」を選択し、「OK」をクリックする。
(貼り付けるエリアを選択した後に右クリックして「形式を選択して貼り付け」を選択して、貼り付けすることも可能。)
- 複数管理者用評価結果シートは、最大6つまで評価結果の貼り付け可能である。該当する評価結果がない場合は、空欄のまます。
- 評価No.ごとの評価分類が異なっていないかどうか確認する。異なっている場合は、竣工年度及び各設備の設置年度が、すべて同じ数値になるように修正した上で、もう一度貼り付け直す。

地球温暖化対策推進状況評価ツール(第一区分事業所)(評価No.1のファイル)

地球温暖化対策推進状況評価結果一覧表(第一区分事業所)【複数管理者用貼付用】

* 評価分類の欄の○印は必須項目、□印は一般項目、+印は加点項目を示す。

不合格の要素の欄の×印は、トップレベル事業所の必須要素を満足しない場合を示す。

評価項目の区分	No.	評価項目	評価分類	不合格要件	得点	最高得点
I. CO2削減推進体制の整備	1.1	CO2削減推進会議等の設置及び開催	○		0.480	0.600
	1.2	POCA管理サイクルの実施体制の整備	○		0.400	0.400
一般管理事項	2.1	図面・改修履歴等の整備	○		0.300	0.300
	2.2	設備台帳等の整備	○		0.300	0.300
	2.3	管理標準等の整備	○		0.300	0.300
	2.4	省エネルギー計画書の整備	○		0.100	0.100
3. 主要設備等に関する計測・計量及び記録	3.1	ビルエネルギーマネジメントシステム(BEMS)等の導入	○		0.500	0.500
	3.2	電力負荷状況・電気状況等の把握に必要な計測・計量設備の導入	○		0.200	0.200
	3.3	エネルギー消費先別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入	○		0.400	0.400
	3.4	系統別の使用量に応じた計測・計量設備の導入	○		0.300	0.300
	3.5	エネルギー供給設備の分析に必要な計測・計量設備の導入	○		0.300	0.300
	3.6	代表階又は代表エリアの使用量把握に必要な計測・計量設備の導入	○		0.300	0.300
4. エネルギー消費量・CO2排出量の管理	4.1	エネルギー消費特性の把握、エネルギー消費原単位の算出及び管理	+		0.000	
	4.2	CO2排出量の管理				
	4.3	CO2排出量の算出				

評価結果貼付用シート

地球温暖化対策推進状況評価ツール(第一区分事業所)(評価No.2のファイル)

地球温暖化対策推進状況評価結果一覧表(第一区分事業所)【複数管理者用貼付用】

* 評価分類の欄の○印は必須項目、□印は一般項目、+印は加点項目を示す。

不合格の要素の欄の×印は、トップレベル事業所の必須要素を満足しない場合を示す。

評価項目の区分	No.	評価項目	評価分類	不合格要件	得点	最高得点
I. CO2削減推進体制の整備	1.1	CO2削減推進会議等の設置及び開催	○		0.480	0.600
	1.2	POCA管理サイクルの実施体制の整備	○		0.400	0.400
一般管理事項	2.1	図面・改修履歴等の整備	○		0.300	0.300
	2.2	設備台帳等の整備	○		0.300	0.300
	2.3	管理標準等の整備	○		0.300	0.300
	2.4	省エネルギー計画書の整備	○		0.100	0.100
3. 主要設備等に関する計測・計量及び記録	3.1	ビルエネルギーマネジメントシステム(BEMS)等の導入	○		0.500	0.500
	3.2	電力負荷状況・電気状況等の把握に必要な計測・計量設備の導入	○		0.200	0.200
	3.3	エネルギー消費先別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入	○		0.400	0.400
	3.4	系統別の使用量に応じた計測・計量設備の導入	○		0.300	0.300
	3.5	エネルギー供給設備の分析に必要な計測・計量設備の導入	○		0.300	0.300
	3.6	代表階又は代表エリアの使用量把握に必要な計測・計量設備の導入	○		0.300	0.300
4. エネルギー消費量・CO2排出量の管理	4.1	エネルギー消費特性の把握、エネルギー消費原単位の算出及び管理	+		0.000	
	4.2	CO2排出量の管理				
	4.3	CO2排出量の算出				

評価結果貼付用シート

「値の貼り付け」

地球温暖化対策推進状況評価ツール(第一区分事業所)【複数エネルギー管理責任者用】

評価項目の区分	No.	評価項目	評価分類	評価結果A	評価結果B	評価結果C	評価結果D	評価結果E	評価結果F	評価結果G	評価結果H	評価結果I	評価結果J	評価結果K	評価結果L	評価結果M	評価結果N	評価結果O	評価結果P	評価結果Q	評価結果R	評価結果S	評価結果T	評価結果U	評価結果V	評価結果W	評価結果X	評価結果Y	評価結果Z		
I. CO2削減推進体制の整備	1.1	CO2削減推進会議等の設置及び開催	○	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300		
	1.2	POCA管理サイクルの実施体制の整備	○	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300		
一般管理事項	2.1	図面・改修履歴等の整備	○	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300		
	2.2	設備台帳等の整備	○	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300		
	2.3	管理標準等の整備	○	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300		
	2.4	省エネルギー計画書の整備	○	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	
3. 主要設備等に関する計測・計量及び記録	3.1	ビルエネルギーマネジメントシステム(BEMS)等の導入	○	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	
	3.2	電力負荷状況・電気状況等の把握に必要な計測・計量設備の導入	○	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	
	3.3	エネルギー消費先別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入	○	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400	
	3.4	系統別の使用量に応じた計測・計量設備の導入	○	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	
	3.5	エネルギー供給設備の分析に必要な計測・計量設備の導入	○	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	
	3.6	代表階又は代表エリアの使用量把握に必要な計測・計量設備の導入	○	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	0.300	
4. エネルギー消費量・CO2排出量の管理	4.1	エネルギー消費特性の把握、エネルギー消費原単位の算出及び管理	+	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	
	4.2	CO2排出量の管理																													
	4.3	CO2排出量の算出																													
I. 自然エネルギーの利用	5.1	自然エネルギーを利用したシステムの導入	+	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	
	5.2	自然エネルギーを利用したシステムの導入	+	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	
	5.3	自然エネルギーを利用したシステムの導入	+	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	
	5.4	自然エネルギーを利用したシステムの導入	+	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	
	5.5	自然エネルギーを利用したシステムの導入	+	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	
	5.6	自然エネルギーを利用したシステムの導入	+	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	
	5.7	自然エネルギーを利用したシステムの導入	+	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	
	5.8	自然エネルギーを利用したシステムの導入	+																												

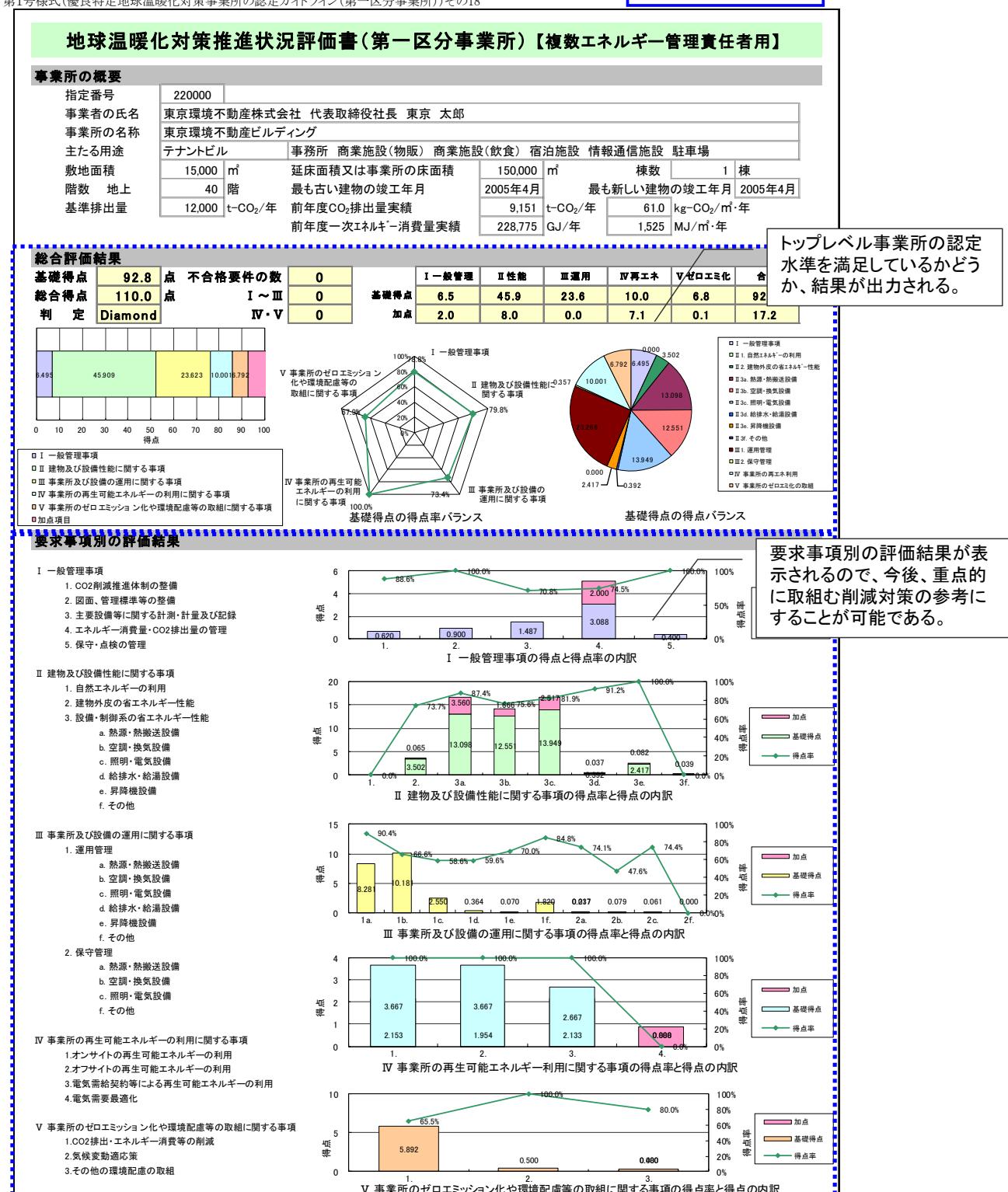
3 複数管理者用評価書シート(第1号様式その18)

評価結果の確認

- 複数管理者用評価結果シートへの値貼り付けが終了すると、認定申請事業所の地球温暖化対策推進状況の評価結果が、複数管理者用評価書シートに表示される。
- 総合得点及び必須要件によって、認定申請事業所がトップレベル事業所等の認定水準を満足しているどうか確認できる。
- 要求事項別の評価結果から、認定申請事業所において優れている点や、今後重点的に取組むべき対策等が確認できる。

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その18

評価結果確認用



3 地球温暖化対策推進状況評価書(第一区分事業所)【複数管理責任者用】作成上の注意点

地球温暖化対策推進状況評価書(第一区分事業所)【複数管理責任者用】を作成する上での、地球温暖化対策推進状況評価書(第一区分事業所)各様式の作成上の注意点を以下の通り説明する。なお、建築物環境計画書の評価結果を用いた評価を行う場合、評価ツール(複数管理者用)を使用することはできない。

メインシート 第1号様式その2

- ・評価・検証の概要の内、評価日、評価者はエネルギー管理区分ごとに入力し、検証日、検証者は未入力とする。
- ・事業所の概要の内、地球温暖化対策事業者の氏名、事業所の名称は、エネルギー管理区分ごとの判別ができるように入力する。評価No.の欄は、エネルギー管理区分ごとに番号を選択する。
- ・事業所の概要の内、延床面積又は事業所の床面積、前年度CO₂排出量実績、前年度一次エネルギー消費量実績の3項目は、エネルギー管理区分ごとの数値を入力する。その際、エネルギー管理責任者ごとの数値の合計が、認定申請事業所全体の数値と合致するように注意する。その他の項目は、認定申請事業所全体の数値を入力する。最も古い建物の竣工年月(西暦)及び最も新しい建物の竣工年月(西暦)は、認定申請事業所全体のすべての建物の中で最も古い建物の竣工年月と最も新しい竣工年月を入力する。主たる用途は認定申請事業所全体で同一の用途を選択する。
- ・用途別床面積及び一次エネルギー消費量実績は、エネルギー管理責任者ごとのエネルギー管理区分を対象にした数値を入力する。その際、エネルギー管理責任者ごとの数値の合計が、認定申請事業所全体の数値と合致するように注意する。
- ・評価ツール(複数管理者用)を使用する場合は、第1号様式その2及びその19ともに同一の用途を選択する。

取組状況入力シート 第1号様式その8からその15

- ・エネルギー管理区分ごとに、取組状況を入力する。他のエネルギー管理区分との重複や入力漏れがないよう注意する。
- ・各設備の設置年度は、認定申請事業所全体のすべての設備の中で最も新しい設備の設置年度及び最も古い設備の設置年度を入力する。

評価ツール(複数管理者用)を使用する場合は、第1号様式その2及びその19ともに同一の用途を選択する。

第1号様式(優良特定地球温暖化対策事業所の認定ガイドライン(第一区分事業所))その2						
評価・検証の概要		認定申請 2025年度 Ver. IV.25				
評価日 2025年6月1日	会社名等 東京環境不動産株式会社	所属 総務部環境対策室長	氏名 東京 次郎			
検証日 2025年8月1日	会社名等 株式会社 日本アドバイス	所属 技術部長	氏名 日本 アドバイス			
		エネルギー管理区分ごとに概要を入力する。				
事業所の概要		評価No.を割り振る。				
指定番号 220000	地球温暖化対策事業者の氏名 東京環境不動産株式会社 代表取締役社長 東京 太郎	事業所の削減義務率 41 %				
事業所の名称 東京環境不動産ビルディング	主たる用途 テナント貸	延床面積又は事業所の床面積 14,000 m ²	最も多い建物の竣工年月(西暦) 2011年4月	事業所の削減義務率 41 %		
敷地面積 34 m ²	敷地 地上	附帯面積 6,500 m ²	前年度CO ₂ 排出量実績 2,633 t-CO ₂ /年	事業所の削減義務率 41 %		
基準排出量 230,000 GJ/年	基準一次エネルギー消費量 前年度CO ₂ 排出量実績 130,000 GJ/年	基準一次エネルギー消費量 前年度CO ₂ 排出量実績 130,000 GJ/年	最新の建物の竣工年月(西暦) 2014年4月	事業所の削減義務率 41 %		
用途別床面積・用途別エネルギー消費比率						
用途名	エネルギー管理区分ごとに数値を入力する。			床面積 [m ²]		
事務所	オフィスビル、官公庁庁舎、警察署、消防署、裁判所、検察署、研究施設(事務所的なものに限る)、宗教施設 等			80,000	77.5%	
商業施設(物販)	ショッピングセンター、百貨店、スーパー、遊技場、温浴施設、空港、バスターミナル 等			1,000	1.8%	
商業施設(飲食)	飲食店、食堂、喫茶店 等			3,000	5.4%	
宿泊施設	ホテル、旅館、公共宿泊施設、結婚式場・宴会場、福祉施設 等					
教育施設	小学校、中学校、高等学校、大学、高等専門学校、専修学校、各種学校 等			1,000	1.7%	
医療施設	病院、大学病院 等			1,000	1.7%	
情報通信施設	電算センター、データセンター、管制施設 等			1,000	4.4%	
文化・娯楽施設	美術館、博物館、図書館、集会場、展示場、劇場、映画館、体育館、競技場、運動施設、遊園地、競馬場、競艇場 等			4,000	4.5%	
物流施設	常温仓库、冷冻仓库、冷链物流仓库、トラックターミナル、物流センター、卸売市場 等					
研究施設	実験・研究施設、クリーンルーム、恒温恒湿室 等					
放送局	放送局、電波塔 等					
水族館	動物園、水族館 等					
駐車場	地下駐車場、車庫 等			10,000	4.8%	
熱供給施設	熱供給施設 等					
合計				100,000	100.00	
エネルギー消費比率					単位 2,085 MJ / m ² ・年 37.0%削減 100.00 100.00	
エネルギー消費比率					測定値が90%以上の場合は、採用値の欄に数値を直接入力して下さい。	
エネルギー消費比率					一次エネルギー消費量	
エネルギー消費先区分	エネルギー消費先区分			標準比率	採用値	
項目	細目	エネルギー消費機器	[GJ/年]	比率		
熱源	熱源本体	冷凍機、冷温水機、ボイラー、バッケージ形空調機等	35,690	27.5%	24.9%	24.9%
	熱源補機	冷却塔、冷却水ポンプ、冷温水1次ポンプ等	6,230	4.8%	4.4%	4.4%
熱搬送	水搬送	冷温水2次ポンプ	4,180	3.2%	2.9%	2.9%
	空気搬送	空調機、ファンコイルユニット等	8,240	6.3%	11.0%	11.0%
給湯	給湯	ボイラー、循環ポンプ、電気温水器等	310	0.2%	1.5%	1.5%
照明・センサ	照明	照明器具	22,430	17.3%	19.8%	19.8%
コンソリ	コンソリ	事務機器等	19,450	15.0%	17.8%	17.8%
換気	換気	駐車場ファン等	5,670	4.4%	9.4%	9.4%
給排水	給排水	揚水ポンプ等	760	0.6%	0.7%	0.7%
昇降機	昇降機	エレベータ、エスカレータ等	2,870	2.2%	2.5%	2.5%
その他	その他	トランク箱、店舗動力等	560	0.4%	5.1%	5.1%
計	全般	事業所全体のエネルギー消費量の合計	106,390	81.8%	100.0%	100.0%
熱負荷低減	外皮	建物外皮からの熱負荷を処理するための空調エネルギー消費量の想定比率		4.3%	4.3%	4.3%
	外気	外気導入による熱負荷を処理するための空調エネルギー消費量の想定比率		12.2%	12.2%	12.2%
	熱負荷	事業所全体の熱負荷を処理するための空調エネルギー消費量(熱源+熱搬送)の想定比率		43.2%	43.2%	43.2%

メインシート(第1号様式その2)